

『マニ・カンブン』における 観自在菩薩の「六字真言成就法」

— ソンツェンガンポ王の伝統による「実践指南口伝」
(dmar khrid zhal gyi gdams pa) — (分科と試訳)

榎 殿 伴 子

はじめに

『マニ・カンブン』は観自在菩薩の化身とされる古代チベット王ソンツェンガンポ（没650）の遺言書として知られる埋蔵経（gter ma テルマ）である。フランツ・カール・エールハルト氏の研究により、最初期木版印刷版のグンタン版の成立年は1521年に特定されている（Ehrhard 2013）。全編に観自在菩薩への帰依と観自在菩薩の功德が説示されている。本稿は、特に、『マニ・カンブン』「成就卷」の第一章「六字真言成就法」（ṣaḍakṣarisādhana）、別名で「大悲心如意宝珠莊嚴六字真言變化章」（thugs rje chen po yid bzhin nor bu'i rgyan yi ge drug pa 'phrul gyi dum bu、以下、「六字真言成就法」）を取り上げる。

「六字真言成就法」は、観自在菩薩の「実践指南」（dmar khrid マルチ）と呼ばれる瞑想実践の手引書である⁽¹⁾。観自在菩薩の「実践指南」についての先行研究は若干に留まっている。ジャネット・ギャツォ氏（Janet Gyatso）は、インド・チベットにおける観自在菩薩の文献及び実践の系譜を辿り、チベットにおける最初期に整備された観自在菩薩の成就法の伝統に5つの系統を指摘し、そのうちの一つであるソンツェンガンポ王の系統を『マニ・カンブン』における観自在菩薩の成就法として特定している（Gyatso 1981: 103–104）。フランツ・カール・エールハルト氏（Franz-Karl Ehrhard）は、「実践指南」の他の系統の

一つであるツェンプ (Tshem pu) 系統を辿り、『マニ・カンブン』のグンタン版製作に至る過程を明らかにしている (Ehrhard 2000)。エールハルト氏は、『マニ・カンブン』のグンタン版の製作者が『マニ・カンブン』における観自在菩薩の教えをツェンプ系統の補助として用いたと指摘している (Ehrhard 2000: 205)。ツェンプはアティシャ (982-1054/1055) をチベットへ招来したチャンチュブ・ウ (Byang chub 'od) の師匠であったと推測されている (Gyatso 1981: 104; Ehrhard 2000.)。つまり、ツェンプの系統は、アティシャ入蔵以前にチベットに存在していた観自在菩薩についての教えということになる。エールハルト氏は、ツェンプ系統の継承者にジョナンパが含まれること、及び、『時輪タントラ』と観自在菩薩の瞑想実践とのつながりについて言及している (Ehrhard 2000: 200-203)。マシュー・カプスタイン氏 (Matthew Kapstein) は、カルマパ三世ランジュン・ドルジェ (1284-1339) がロンチェンパ (1308-1399) に与えた灌頂において、ソンツェンガンポ王の伝統による観自在菩薩の瞑想が言及されていると指摘している (Kapstein 1992: 83, 167n. 21)。

筆者は、観自在菩薩の「実践指南」は、チベット仏教における如来蔵思想史を考察する上で重要な位置づけを持つと考える。というのは、先行研究に言及される観自在菩薩の瞑想実践と関係する者たちは、後伝期チベット仏教における『宝性論』解釈の二つの系譜のうち、後に他空派として展開することになるツェン・カオチェの瞑想派の系譜に一致していくからである。

筆者は先に刊行した拙著 (横殿2021年) において、『マニ・カンブン』が第三法輪を了義とする如来蔵系経典であること、自心仏と即身成仏を説くこと、アティシャに帰される「心浄法」あるいは「心の修行」(blo sbyong ロジヨン) の説示によって、心を土台とした仏性論が展開されていることを指摘した。さらに、『マニ・カンブン』に説かれる心の教えがチベットで展開された中観他空の教えの系譜に一致していくことも同書において指摘した (Cf. Makidono 2016)。そこで見た限りでは、『マニ・カンブン』には、観自在菩薩への帰依の実践に基

づく成仏へのアプローチが説かれており、そのアプローチによって、尊格と自心が同定されていた。

本稿では、「六字真言成就法」の分科と試訳を提示し、「六字真言成就法」における心と仏性と空性の関係について考察する。この作業を通して、チベットにおける如来蔵思想史の再構築を行う手がかりとなる文献資料を提示したい。訳出に当たり、ツェリン・リンポチェの英訳 (H.E. Trizing Tshering Rinpoche 2007) を参照した。

基・道・果における法性真義の大悲者

「六字真言成就法」では、仏道の基・道・果のすべてにおいて大悲者が共にあり続けるという大綱が、まず最初に示される。「六字真言成就法」は、大悲者を(1)法性真義の大悲者 (chos nyid don gyi thugs rje chen po) と(2)大悲化身として的大悲者 (thugs rje sprul pa'i thugs rje chen po) に二分する。法性真義の大悲者は基・道・果の三つの方法で成就される。まず、基は仏性である。(sangs rgyas gzhi'i dug tshul)。基は「あるがままのあり方、法性の大悲者」(gnas lugs chos sku'i tshug rje chen po) である。道にこの基を携えていく方法が「修道の大悲者」(sgom pa lam gyi thugs rje chen po) と呼ばれる。道で、「自心が大悲者と同定される」(rang sems thug rje chen por ngo sprad)。「究竟果の大悲者」(mthar thug 'bras bu'i thug rje chen po) において、「仏の三身が自明知 (rang gi rig pa) に現れる」と説かれている⁽²⁾。このように、大悲者は基・道・果において常住であることから、仏性常住を説く如来蔵思想であると言えるであろう。

大悲心の化身として的大悲心者成就の構成

(1) 前行

大悲の化身として的大悲者は、前行と本行の二つで成就される。前行は六つ

の枝分から成る。①抛り所・機としての人、②縁切り、③修道のための聖地、④必需品、⑤眷属との関係、⑥除災のための加持である。これら六つの枝分の各々がさらに六枝(外 phyi、内 nang、秘密 gsang ba、真義 don、徴 rtags、特徴 mtshan)を持つ。

まず、前行における①機としてのは、

「外的には、家系が良く、長く続いていること。内的には、法性を悟得する般若智が大きいこと (shes rab che ba)。秘密には、明知の力 (rig pa'i rtsal) が大きいこと。真義には、偏向なき大悲 (phyogs su ma lhung ba'i snying rje chen po) を持つこと。徴は、法に疑念を持たず (chos la the tshom med)、一切に対して調和しており、見た目がよいこと。特徴は、大悲者を特に信樂する者 (khyad par du mos pa)⁽³⁾」

と定義されている。

②の縁切りは、借財や親類縁者の関係を断つことの他に、「自心の虚偽と穢れ一切を除去すること」(rang gi sems kyi g.yo sgyu dang dri ma thams cad spangs)、「師匠の口伝によって決めること」(bla ma'i gdams ngag gis thag bcad)、「徴の縁は、心相続に法性の意味を悟得することだと判断すること」(rtags kyi 'brel pa rgyud la chos nyid kyi don rtogs par thag bcad)⁽⁴⁾と説示されている。

③の修道の聖地は、人身とその人の心が聖地である。大悲心者は人身に住み自心に住むと説示されている。「心 (citta) に、本来から清浄な自心が始原から住している (snying tshitha rin po che na rang sems ka dag tu ye nas gnas pa) と説明されている。「本来清浄」(ka dag) はゾクチェンの用語である。特徴の聖地は、我と他の区別をなさず、不二双入 (gnyis med zung 'jug) に住すると説示されている⁽⁵⁾」

④の必需品は、生活物資や医療品、武器やマントラ (sngags)、多くの經典と読誦伝授 (bka' rgya che lung grangs mang)、ラマの口伝 (bla ma'i gdams

ngag) の他、大悲者と同定された自心が必需品である (rang sems thugs rje chen por ngo sprad pa)。さらに、大悲心者の成就法と秘伝 (thugs rje chen poi sgrub thabs dang man ngag) を携える⁽⁶⁾。

⑤の眷属は、外的には信心を持った寄進者 (sbyin bdag dad pa can)、内的には勤行に励む、良い性質の付き人、秘密の眷属は印女 (phyag rgya ma)、真義の眷属は知見 (lta ba)、徴は瞑想の経験 (bsgom pa nyams)、特徴は行を友とすること (spyod pa grogs dang bcas pa bsten) である⁽⁷⁾。眷属の六枝のうち、後半三枝は、行者自身の実践修行そのものであることが理解される。

⑥の除災 (bar chad mi 'byung ba) のための加持は観想行においてなされる。そこで、仏としてのラマの重要性が説かれている。外的な加持は師匠による加持である。現前に観想した蓮華座上に、根本ラマ-釈迦牟尼仏と別ではないーと、系譜の師匠たちが仏・菩薩の姿で着座していると説かれる。内的には守護尊 (yi dam) による加持が説かれる。師匠の右手の蓮華上で五部仏が大悲心者を圍繞しているのを観想する⁽⁸⁾。

(2) 根本次第 (本行) の構成

前行の後に、根本次第 (本行) が説かれる。根本次第の目的は、勝義のあるがままのあり方を確立すること (don gyi gnas lugs gtan la bebds pa) である。菩提は一切諸法が空であることを悟得することであると定義し、それを悟得しない衆生へ悲を起こすと説く⁽⁹⁾。六輪 ('khor) から成り、六輪の各々がさらに六枝に分かれる。六輪は、(1) 瞑想の対象 (1. 生起次第と三昧耶薩埵、2. 究竟次第と智慧薩埵、3. 真言輪、4. 心空性、5. 甘露藥輪、6 安らぎの行道) (2) 理解の対象 (1. 身、2. 口、3. 意、4. 外観、5. 声、6 念) (3) 意図 (1. 区分、2. 要約した意味、3. 実践、4. 加持、5. 心統一、6 如実) (4) 中有 (バルド) (1. 自性を住処とする中有 2. 生死の中有、3. 前後の認知の中有、4. 夢の中有、5. 臨終時の中有、6 輪廻転生の中有における上中下三品) (5) 知見と修習 (1. 人 2. 知見 3. 瞑

想 4. 浄化 5. 果 6 口伝) (6) 不真実 (1. 仏の悲心、2 衆生の業、3. 偶発的条件、4. 有為法、5. [努力 (rtsol sgrub) によって] 成就しようとする道、6. [心 blo] によって得た果である。これらの六枝はさらに六つに細分され、解説されている。

ここで、「心」という訳語について注記しておく。「六字真言成就法」において心として訳されるチベット語には、sems, yid, blo がある。そのうち、sems と yid は法性と同定されており、⁽¹⁰⁾同義として使われていると思われる。しかし、「心 (blo) は変化するので、果は変化する」⁽¹¹⁾と解説されていることから、blo は sems と yid とは峻別されることが理解できる。「心の浄化」(blo sbyong) という修行には blo が使われている。blo は不真実の範疇に入る (分科2.2.6.6)。

生起次第

まず、根本次第は生起次第からはじまる。生起次第において、三昧耶薩埵のとき、行者は一面四手の大悲心者となる。究竟次第で、三昧耶薩埵大悲心者が、智慧薩埵を喚び、互いに礼拝する。三昧耶薩埵が智慧薩埵に献供し、智慧薩埵が三昧耶薩埵に融解し、両薩埵は不二合一する。その胸から光が出て、五部尊を招き、五部尊の女尊が灌頂する。甘露水が頭上から滴り落ち、浄化されて、灌頂が得られる。行者の頭の冠は五部仏で荘厳され、眼前には阿弥陀仏が座している。

六字真言念誦法

灌頂の完成後に、六字真言念誦法が六方法説かれる。一つには、顕經典のように、六字真言念誦によって、六字真言を聞いた人の障蓋 (sgrib pa) が清まるため、利他を為すことになる。二つ目に、密教のように接近念誦による悉地 (bsnyen sgrub, sevādādhana) の方法で誦する。三つ目に虚空女がシンボリックな念誦法によって加持する。四つ目に、師匠 (bla ma) と本尊 (lha) へ請願

し、デルゲ版では、母を息子が呼ぶような念誦法、プナカ版では、母は息子を呼ぶような念誦法により除災する。五つ目には、障蓋の浄化法を実践する方法で念誦する。六つ目には六字真言を等持の定において念誦し、身口意の三業が等持の定の状態で念誦するとき、心は無分別の状態になり、楽と明瞭を体験すると説かれる。六つ目を金剛念誦と呼んでいる⁽¹²⁾。

心の空性

六種念誦法の説示の後に、心は空性 (sems stong pa nyid) であるという意味について六つの観点から説明される。『マニ・カンブン』の空性は自空 (rang stong) であり、「六字真言成就法」は、そのような空を、心と結びつけて説く。外界の現象、内的な分別、五毒、知見、心が空性と同定される。心の本性 (sems nyid) について、さらに説明されている。

「第四。勝義。知見は空。心の本性 (sems nyid) の核は空、〔両〕極から離れている。所依がないものとして導入する。第五。〔心空性の〕徴は、心の本性の空の修習は、明瞭で執着なきものとして導入される。第六。〔心空性の〕特徴について。明知と空は不分離。常時、それ〔心の本性〕と不分離と定義する⁽¹³⁾」

と説かれている。明知と空は、それ自体不分離であり、心の本性は明知と空と不分離として定義されている。

根本次第において、自心の心を仏とする観想と、自身の身体を本尊とする観想を行う。その瞑想の中で、自解脱 (rang grol)、空性、明知 (rig pa) が繰り返し説かれる。以下に用例をあげる。

心は仏

中有の導入における「自性を住処とする中有」の節において、心が仏と同定されている (sems sangs rgyas su ngo sprad)。大いに遍満するあるがままのあ

り方は母親 (ma khyab gdal chen mo'i gnas lugs) に例えられ、息子は明知に例えられている。

自性を住处とする中有は、母親の膝から息子が擦り落ちるようにである。

母親－遍満する、ものごとのあるがままのあり方－から、息子－明知 (bu rig pa) の一片を切断するとき、母子のシンボル (brda) が結ばれて、輪廻と涅槃が分かれる。心を仏と同定する (sems sangs rgyas su ngo sprad)⁽¹⁴⁾。

自身は仏

「六字真言成就法」では、自心だけでなく、自分自身の身体を本尊として理解することが説かれている。「身体 (lus) を本尊として理解し、自分自身を大悲者として瞑想する⁽¹⁵⁾」と説かれている。

自解脱

「自解脱」(rang grol) は心の状態に用いられている。本行の行道 (spyod lam) は、休息、安らぎ、弛緩した状態 (bag yangs) で行われる。安らぎを、住处、身、口、心、行、悲の六つの点から説いている。その中で、(2.1.6.4) 安らぎの心 (安心) は、「造作なく、自解脱し、自然に休息する⁽¹⁶⁾」と説明されている。

身口意の (yid) を法性として理解することが説かれる。そのとき、意は、「自解脱し、自ずと明瞭で、無分別の状態となる⁽¹⁷⁾」と説かれている。

本来清浄 (ka dag)

ゾクチェンの用語である「本来清浄」(ka dag) 自身の内にある如意宝珠が始源から症状な法身の智として同定されている。如来蔵思想として見ることできよう。

果のとき、如意宝珠は自身にあるのであって、他に探し求めるのではない。

『マニ・カンブン』における観自在菩薩の「六字真言成就法」(楨殿伴子)

本来清浄な法身の智として同定する。⁽¹⁸⁾

結部の構成

結部は7枝分から成り、各枝分がそれぞれ六枝分がある。(3.1) 所拠の六法 (1 奉獻 2 供物 3 讃嘆 4 勧請 5 熱い塩 6 御本尊の洗淨) (3.2) 聴聞の六法 (3.2.1 灌頂 3.2.2 命の成就 3.2.3 加持 3.2.4 杖を使った秘儀 3.2.5 ヤントラ 3.2.6 病気の治療) (3.3) 死者への利益(葬儀次第) (3.3.1 屍体の洗淨 3.2 壺の浄化 3.3 屍体の焼却 3.4 名号の刻印と浄化 3.5 墓入 3.6 陰膳) (3.4) 仏の活動 (1 寂靜・柔和 2 増益 3 灌頂 4 降伏 5 護摩 6 教化) (3.5) 密教の六奥義 (1 ツァルン、2 ポワ 3.5.3 トンジユク 3.5.4 幻身 3.5.5 ウセル 3.5.6 トゥンモ) (3.6) 瞑想と瞑想の間隙に行う六法 (3.6.1 七枝分 3.6.2 マンダラ 3.6.3 浄水 3.6.4 周回 3.6.5 トルマ 3.6.6 水トルマ) (3.7) 業の周縁一切 (3.7.1 外 3.7.2 内 3.7.3 秘密 3.7.4 勝義 3.7.5 徴 3.7.6 特徴・定義) である。(3.5) の密教の六奥義はナローの六法に相応する教えであり、『マニ・カンブン』中の他の箇所にも説示されている。⁽¹⁹⁾

おわりに

本稿では「六字真言成就法」における心と仏性と空性の関係について考察することを試みた。「六字真言成就法」では、一切諸法は空であるが、同時に、この世の現象一切が大悲者である。現象界の音・声一切が六字真言である。六字真言念誦によって除災と障蓋の浄化がなされる。六字真言には他力と自力の二つの方向が示唆されている可能性もあるのではないか。大悲者を実践修行する人の身体が大悲者の住処である。実践修行の基・道・果のすべての過程で、大悲は常に自分の中にあり、本来清浄な自心を大悲者として悟得することが説かれている。つまり、自身の心を仏とする自心仏だけでなく、自身の身体を仏とする自身仏が説かれていることを見た。心も身体もともに、行者そのひと自身が大悲心観自在菩薩である。⁽²⁰⁾ 即身成仏の教えが示されていると言えるであろう。

真言密教が説く「三種の即身成仏」(勝又 1981: 50; 土居 2020: 241) と相応しているのではないだろうか。

如来蔵思想史においては、先行研究が挙げる観自在菩薩の瞑想の実践者は、チベットにおける『宝生論』の伝承におけるツェンカオチェの瞑想学派の系譜、つまり、他空派と呼ばれるようになっていく系譜に一致することを指摘した。筆者は、ツェンカオチェの瞑想学派が実践していたのは観自在菩薩の成就法であったのではないかと仮説する。観自在菩薩の瞑想実践の中に、ナーローの六法、葬送儀礼、生起次第と究竟次第を通しての五仏による灌頂などが含まれるのである。仏と行者が常に一体としてあり続け、離れない方法が「成就法」として様々に示されている。このような方法が王家とそれに関係する人々に伝承された教えであったのではないか。これらについて、さらに究明していきたい。

以下に、分科と試訳を付する。

「六字真言成就法」(「大悲心如意宝珠莊嚴六字真言権化章」) 分科

I. 題名・帰敬・目的

II. 大悲心者の分類

1 法性真の大悲者 (chos nyid don gyi thugs rje chen po)

1.1 三つの方法で基盤を確立すること (tshul gsum gyis gzhi gtan la dbab pa)

1.1.1 基：仏性が基としてある方法 (sangs rgyas gzhi'i 'dug tshul) : あるがままのあり方としての法性の大悲者 (gnas lugs chos sku'i tshug rje chen po)

1.1.2 道：人が実践する方法 (gang zag lam gyi 'kyer tshul) : 瞑想修行道の大悲者 (sgom pa lam gyi thugs rje chen po)

1.1.3 果：果の表れ方 ('bras bu 'chang ba'i 'chad tshul)。究極の果の大悲者 ('bras bu 'chang ba'i 'chad tshul)

1.2 三輪による修習 (skor gsum gyis nyams su blang ba)

1.2.1 外輪 (phyi skor phyi ru bskor)

1.2.2 内輪 (nang skor nang du bskor)

1.2.3 秘密輪 (gsang skor gsang bar bskor)

2. 大悲の権化としての大悲者 (thugs rje sprul ba'i thugs rje chen po)

2.1. 前行 (sngon 'gro)

- 2.1.1 拠り所・機としての人 (rten gyi gang zag)
 - 2.1.1.1 外：家系が良く、長く続いていること (phyi rigs rgyud bzang zhing ngang rgyud ring ba)
 - 2.1.1.2 内：法性を悟得する智慧が大きいこと (nang chos nyid rtogs pa'i shes rab che ba)
 - 2.1.1.3 秘密：明知 (rig pa) の力が大きいこと (gsang ba rig pa'i rtsal che ba)
 - 2.1.1.4 真義：偏向なき悲心が大きいこと (don phyogs su ma lung ba'i snying rje chen po yod pa)
 - 2.1.1.5 徴：法に疑念なく、一切に調和していること (rtags chos la the tshom med cing kun la mthun snang yid du 'ong ba)
 - 2.1.1.6 特徴：特徴の大悲者を特に信樂すること (mtshan pa'i thugs rje chen po la khyad par du mos pa)
- 2.1.2 縁を断つこと ('brel pa bcad pa)
 - 2.1.2.1 外の縁 (phyi'i 'brel pa)
 - 2.1.2.2 内の縁 (nang gi 'brel pa)
 - 2.1.2.3 秘密の縁 (gsang ba'i 'brel pa)
 - 2.1.2.4 真義の縁 (don gyi 'brel pa)
 - 2.1.2.5 徴の縁 (rtags kyi 'brel pa)
 - 2.1.2.6 特徴の縁 (mtshon pa'i 'brel pa)
- 2.1.3 修道の聖地を探す (gnas btsal)
 - 2.1.3.1 外の聖地 (phyi'i gnas)
 - 2.1.3.2 内の聖地 (nang gi gnas)
 - 2.1.3.3 秘密の聖地 (gsang ba'i gnas)
 - 2.1.3.4 真義の聖地 (don gyi gnas)
 - 2.1.3.5 徴の聖地 (rtags kyi gnas)
 - 2.1.3.6 特徴の聖地 (mtshon pa'i gnas)
- 2.1.4 必需品 (mkho ba'i yo byad)
 - 2.1.4.1 外の生活物資の必需品 (phyi'i 'tsho ba rdzas kyi yo byad)
 - 2.1.4.2 内・病氣治療のための必需品 (nang nad gso ba'i yo byad)
 - 2.1.4.3 秘密・敵・妨害から護るための必需品 (gsang ba dgra bgegs bsrung ba'i yo byad)
 - 2.1.4.4 真義の必需品 (don gyi yo byad)
 - 2.1.4.5 徴の必需品 (rtags kyi yo byad)
 - 2.1.4.6 特徴の必需品 (mtshon pa'i yo byad)
- 2.1.5 眷属との縁結び ('khor gyog gi 'brel pa gzhus pa)

『マニ・カンブン』における観自在菩薩の「六字真言成就法」(横殿伴子)

- 2.1.5.1 外の眷属 (phyi' i 'khor)
- 2.1.5.2 内の眷属 (nang gi 'khor)
- 2.1.5.3 秘密の眷属 (gsang ba'i 'khor)
- 2.1.5.4 真義の眷属 (don gyi'khor)
- 2.1.5.5 徴の眷属 (rtags kyi 'khor)
- 2.1.5.6 特徴の眷属 (mtshon pa'i 'khor)
- 2.1.6 災難が発生しないようにするための加持 (bar chad mi 'byung bar bya ba'i
phyir byin gyis brlab pa)
 - 2.1.6.1 |外：師匠による加持 (phyi bla mas byin gyis brlab pa)
 - 2.1.6.2 内：守護尊による加持 (nang yi dam gyis byin gyis rlob pa)
 - 2.1.6.3 秘密：五部仏の虚空女〔明妃〕による加持 (gsang ba rigs lnga'i mkha'
'gro mas byin gyis brlab pa)
 - 2.1.6.4 真義：法性を悟得するための知見による加持 (don chos nyid rtogs pa'i
lta bas byin gyis rlob pa)
 - 2.1.6.5 徴：明知・無執着の修習による加持 (rtags rig pa 'dzin med sgom pas
byin gyis brlab pa)
 - 2.1.6.6 特徴：平等・無偏向の行による加持 (mtshon pa mnyam pa ris med
spyod pas byin gyis brlab pa)
- 2.2. 根本次第(本行)：真義の在り方を確立するため (dngos gzhi don gyi gnas lugs
gtan la 'bebs pa)
 - 2.2.1 瞑想の対象：六輪 (bsgom na gang sgom 'khor lo drug tu bsgom)
 - 2.2.1.1. 生起次第：三昧耶薩埵輪 (bskyed pa'i rim pa dam tshig sems dpa' 'khor
lo bsgom pa)
 - 2.2.1.1.1 空性に基づく阿毘菩提 (stong pa nyid las mngon par byang chub
pa)
 - 2.2.1.1.2 利他に基づく阿毘菩提 (gzhan don las mngon par byang chub pa)
 - 2.2.1.1.3 日月蓮華座に基づく阿毘菩提 (gdan nyi zla padma las mngon par
byang chub pa)
 - 2.2.1.1.4 真言手印に基づく阿毘菩提 (yig 'bru phyag mtshan las mngon par
byang chub pa)
 - 2.2.1.1.5 身の完成に基づく阿毘菩提 (sku yongs su rdzogs pa las mngon par
byang chub pa)
 - 2.2.1.1.6 身口意加持と印可 (sku gsung thugs byin gyis brlab cing rgyas btab
pa)
 - 2.2.1.2 究竟次第：智慧薩埵輪 (rdzogs pa'i rim pa ye she sems dpa'i 'khor lo

『マニ・カンブン』における観自在菩薩の「六字真言成就法」(横殿伴子)

bsgom pa)

- 2.2.1.2.1 灌頂次第 (sphyan drang ba'i rim pa)
- 2.2.1.2.2 礼拝次第 (phyag 'tshal ba'i rim pa)
- 2.2.1.2.3 供養次第 (mchod pa'i rim pa)
- 2.2.1.2.4 不二融解次第 (gnyis su med par bstim pa'i rim pa)
- 2.2.1.2.5 灌頂次第 (dbang bskur ba'i rim pa)
- 2.2.1.2.6 五部仏の印可 (rigs lnga'i sangs rgyas rgyas rgyas gdab pa)
- 2.2.1.3 真言輪 (ngag sngags kyi 'khor lo)
 - 2.2.1.3.1 外：經典式利他念誦 (phyi mdo sde ltar gzhan don du bzlas pa)
 - 2.2.1.3.2 内：密教式接近念誦成就・觀想念仏 (nang gsang sngags ltar bsnyen sgrub kyi tshul du bzlas pa)
 - 2.2.1.3.3 秘密：虚空女の加持・象徴的念誦 (gsang ba mkha' 'gro mas byin rlabs brda'i tshul du bzlas pa)
 - 2.2.1.3.4 師匠と本尊の勧請・母親を(は)息子が(を)呼ぶ仕方での念誦 (bla ma dang lha la gsol ba gdab pa ma la bus [bu S] 'bod kyi tshul du bzlas pa)
 - 2.2.1.3.5 障蓋の浄化法実践の仕方での念誦 (sgrib sbyong chos spyod kyi tshul du bzlas pa)
 - 2.2.1.3.6 金剛念誦：瞑想定の仕方での念誦 (rdo rje'i bzlas pa mnyam gzhag bsam gtan gyi tshul du bzlas pa)
- 2.2.1.4 心空性輪 (sems stong pa nyid kyi 'khor lo)
 - 2.2.1.4.1 外：現象空の導入 (phyi snang ba stong par ngo sprad pa)
 - 2.2.1.4.2 内：分別空の導入 (nang rnam rtog stong par ngo sprad pa)
 - 2.2.1.4.3 秘密：五毒空の導入 (gsang ba dug lnga stong par ngo sprad pa)
 - 2.2.1.4.4 真義：知見は空 (don lta ba stong pa)
 - 2.2.1.4.5 徴：心本性の空の修習は明瞭で無執着であると導入する (rtags sems nyid stong pa sgom pa gsal la 'dzin med du ngo sprad)
 - 2.2.1.4.6 特徴：明知と空は不分離と導入する (mtshon pa rig stong dbyer med dus rtag tu de dang mi 'brel bar ngo sprad)
- 2.2.1.5 甘露薬輪 (zas bdud rtsi sman gyi 'khor lo)
 - 2.2.1.5.1 外の食物輪：天神への食物聚の献供 (phyi zas bdud rtsi sman gyi 'khor lo zas tshogs lha la dbul ba)
 - 2.2.1.5.2 内の食物 (nang zas tshogs kyi 'khor lo)
 - 2.2.1.5.3 秘密の食物輪 (gsang ba zas tshogs kyi 'khor lo)
 - 2.2.1.5.4 真義の食物聚 (don gyi zas tshog)

『マニ・カンブン』における観自在菩薩の「六字真言成就法」(横殿伴子)

- 2.2.1.5.5 微の食物聚 (rtags kyi zas tshogs zas)
- 2.2.1.5.6 特徴の食物聚 (mtshon pa'i zas tshogs)
- 2.2.1.6 安らぎの行道輪 (spyod lam bag yangs kyi 'khor lo)
 - 2.2.1.6.1 安らぎの住処 (gnas bag yangs)
 - 2.2.1.6.2 安らぎの身体 (lus bag yangs)
 - 2.2.1.6.3 安らぎの語 (ngag bag yangs)
 - 2.2.1.6.4 安らぎの心 (sems bag yangs)
 - 2.2.1.6.5 安らぎの行道 (spyod lam bag yangs)
 - 2.2.1.6.6 安らぎの悲 (snying rje bag yangs)
- 2.2.2 実践の六対象 (nyams su gang len na 'khyer so drug len)
 - 2.2.2.1 身：尊格 (lus lha'i 'khyer so)
 - 2.2.2.2 語：真言 (ngag sngags kyi 'khyer so)
 - 2.2.2.3 意：法性 (yid chos nyid kyi 'khyer so)
 - 2.2.2.4 外観：仏身 (snang ba sku'i 'khyer so)
 - 2.2.2.5 声：仏語：六字真言 (grag pa gsung gi 'khyer so ni | sgra grag pa thams cad yi ge drug pa'i sgrar 'khyer)
 - 2.2.2.6 想念 dran rtog thugs kyi 'khyer so
- 2.2.3 六肝要 (dgongs pa drug tu bsdu)
 - 2.2.3.1 区別の意味：六字真言 (dbye ba'i don la dgongs nas yi ge drug la bsdu ba)
 - 2.2.3.2 要約した意味：六字真言を三つに要約する (bsdu ba'i don la dgongs te | yi ge drug gsum la bsdu ba)
 - 2.2.3.3 実践：〔凡夫の〕身口意は〔仏の〕身口意に要約する (nyams su blangs pa la dgongs te | lus ngag yid gsum 'bras bu sku gsum du bsdu ba)
 - 2.2.3.4 加持：スヴァスティカに集約する (byin gyis brlabs pa la dgongs te g.yung drung 'khyil ba la bsdu ba)
 - 2.2.3.5 心の統一：赤い滴に集約する (sems 'dzin la dgongs te | thig le dmar po la bsdu ba)
 - 2.2.3.6 如実：あるがままのあり方・基に集約する (de kho na nyid la dgongs te | gnas lugs gzhi'i ngang la bsdu ba)
- 2.2.4 中有への導入 (bar do drug tu ngo sprod)
 - 2.2.4.1 自性を住処とする中有 (rang bzhin gnas pa'i bar do)
 - 2.2.4.2 生死の中有 (skye shi bar do)
 - 2.2.4.3 前後の認知の中有 (shes pa snga phyi'i bar do)
 - 2.2.4.4 夢の中有 (rmi lam gyi bar do)

『マニ・カンブン』における観自在菩薩の「六字真言成就法」(横殿伴子)

- 2.2.4.5 臨終時の中有 (chi kha ma'i bar do)
 - 2.2.4.6 生存(輪廻転生へ)の中有：上中下三品 (srid pa'i bar do)
 - 2.2.5 解脱の肝要：解脱のための知見・修習の六意図 (gnad gang du 'grol na lta sgom gyi dgongs pa drug tu 'grol lta sgom gyi dgongs pa drug)
 - 2.2.5.1 凡夫・人のとき (gang zag gi dus su)
 - 2.2.5.2 見解のとき (lta ba'i dus su)
 - 2.2.5.3 瞑想・修習のとき (sgom pa'i dus su)
 - 2.2.5.4 浄化のとき (sbyong ba'i dus su)
 - 2.2.5.5 果のとき ('bras bu'i dus su)
 - 2.2.5.6 口伝のとき：gdams ngag gi dus su ye shes kyi spyen long du mi gzhug
 - 2.2.6 六つの不真実を超えること (gang tu bzlo na mi bden pa drug tu bzlo)
 - 2.2.6.1 仏の悲心 (sangs rgyas kyi thugs rje mi bden)
 - 2.2.6.2 衆生の業 (sems can gyi las mi bden)
 - 2.2.6.3 偶発的条件 ('phral gyi rkyen mi bden)
 - 2.2.6.4 有為法 (byas pa'i chos mi bden)
 - 2.2.6.5 成就しようとする道 (bsgrub bya'i lam mi bden)
 - 2.2.6.6 所得の果 (thob pa'i 'bras bu mi bden)
- III 結：業聚の支部の説明 (las tshogs kyi yan lag ji ltar bshad)
- 3.1 所依の六法 (rten gyi chos drug)
 - 3.1.1 奉獻 (rab gnas)
 - 3.1.2 供物 (mchod pa)
 - 3.1.3 讚嘆 (bstod pa)
 - 3.1.4 勧請 (gsol ba gdad pa)
 - 3.1.5 熱い塩 (tshwa tsha)
 - 3.1.6 御本尊の洗浄 (sku khurus)
 - 3.2 聴聞の六法 (gson gyi chos drug)
 - 3.2.1 灌頂 (dbang bskur)
 - 3.2.2 寿命の成就 (tshe bsgrub)
 - 3.2.3 加持 (byin rlabs)
 - 3.2.4 杖を使った秘儀 (dbyug chos)
 - 3.2.5 ヤントラ (srung 'khor)
 - 3.2.6 病気の治療 (nad 'don)
 - 3.3 死者への利益〔葬送儀礼〕(gshin po la phan gdags pa'i chos drug)
 - 3.3.1 屍体の洗浄 (ro khurus)
 - 3.3.2 壺の儀礼 (bum chog)

『マニ・カンブン』における観自在菩薩の「六字真言成就法」(横殿伴子)

- 3.3.3 屍体の焼却 (ro bsreg)
- 3.3.4 刻印された諡の浄化 (mtshan byang sbyangs pa)
- 3.3.5 入墓 (dur chad du gzhus pa)
- 3.3.6 陰膳 (ro zan btang ba)
- 3.4 仏の活動 ('phrin las drug)
 - 3.4.1 寂靜・柔和 (zhi ba)
 - 3.4.2 増益 (rgyas pa)
 - 3.4.3 灌頂・力 (dbang)
 - 3.4.4 降伏 (mngon spyod)
 - 3.4.5 護摩 (sbyin sreg)
 - 3.4.6 教化・制圧 (brtul zhugs)
- 3.5 密教の六奥義 (gsang sngags kyi gnad drug)
 - 3.5.1 ツアルン (rtsa rlung)
 - 3.5.2 ポワ (遷移) ('pho ba)
 - 3.5.3 トンジュク (入体) (grong 'jug)
 - 3.5.4 ギユ・ル (幻術身) (sgyu lus)
 - 3.5.5 ウセル (光明) ('od gsal)
 - 3.5.6 トウンモ (内熱・チャンダーリーの火) (gtum mo)
- 3.6 合間に行う六法 (thun mtshams kyi chos drug)
 - 3.6.1 七つの浄相 (bdun rnam dag)
 - 3.6.2 マンダラ (maṇḍala)
 - 3.6.3 浄水 (khrus chab)
 - 3.6.4 周回 (bskor ba)
 - 3.6.5 トルマ (gtor ma)
 - 3.6.6 水トルマ (chu gtor)

補足：業の周縁

IV 奥書

「六字成就法」(「大悲心如意宝珠莊嚴六字真言権化章」)⁽²¹⁾ 試訳

I. 題名・帰敬・目的

オーン・マ・ニ・ベ・メ・フーン。インド語で、『六字成就法 Ṣaḍakṣarisādhana』と題される。尊師・本尊・ダーキニー(虚空女)に帰命いたします。チベット語で、『六字成就法 Yi ge drug pa'i sgrub thabs』と題される。尊師・守護尊・虚空女に帰命いたします。如来の御心の真髓、明かりを作る灯明石。「実践指南」(dmar khrid) の口

伝。暗闇に明かりをともし灯明。輪廻と涅槃の二つの障壁を取り除くもの。一切の乗の鍵。虚空女の秘密の巻。大悲心者如意宝珠の莊嚴・権化章と呼ばれる巻。⁽²²⁾

II. 大悲心者の分類

一般的に、大悲心者には、(1) 法性・真義の大悲者と、(2) 大悲の化身として的大悲心者の二つがある。法性・真義の大悲心者には、(1.1) 三つの方法で基盤 (gzhi) を確立すること、(1.2) 三輪による修習の二つがある。⁽²³⁾

1. 法性・真義の大悲心者

1.1. 基・道・果

(1.1) 最初に〔法性真義の大悲心者は〕、三つの方法で基を確立する。(1.1.1) 仏性が基である方法：あるがままのあり方として、法性の大悲心者である。基には名前が一切ない。偏りに陥ることがなく、あるがままのあり方を確立することが導入である。(1.1.2) 人が実践する方法。瞑想修行道の大悲者は、戯の表れは止むことがない。熟慮し、吟味し、心に放ち、自分自身の心が大悲心者であると同定する。(1.1.3) 果を持つ説明の仕方。究竟の果の大悲者は、三身が自身の明知 (rang gi rig pa) として現れるということに要約される。⁽²⁴⁾

1.2 三輪による修習

(1.2) 三輪による修習について。(1.2.1) 外輪が外に転ずる。現在の六根六識のこの現象一切が大悲者の戯れか莊嚴であるので、自ずと現れ、自解脱すると知るべきである。(1.2.2) 内輪が内に転ずる。内の認知 (rig pa) が確立する。この様々な想念の動きの作業は大悲者の智慧を大悲者の智慧と認知して、自生自浄として確立する。(1.2.3) 秘密輪は秘密に転ずる。母・法性が、息子・シンボルを適用する。母・法性は大悲〔心〕の包摂から、息子・概念の五毒が強力に現れる。母の膝に沈む息子のように、自生自沈的にシンボルを適用する。⁽²⁵⁾

2. 大悲の権化として的大悲者

大悲の権化として的大悲者について。(2.1) 前行と (2.2) 本行の二つを成就すべし。そのうちで、前行には六つある。⁽²⁶⁾

2.1.1 抛り所・機としての人

(2.1.1) まず最初に、大悲を成就する抛り所・機 (rten) としての人 (gang zag) には六つの特徴がある。(2.1.1.1) 外的には、家系が良く、長く続いていること、(2.1.1.2) 内的には、法性を悟得する智慧が大きいこと、(2.1.1.3) 秘密裏には、明知 (rig pa) の

力が大きいこと、(2.1.1.4) 真義には、偏向なき悲心が大きいこと、(2.1.1.5) 徴は、法に疑念なく、一切に対しての顕現が心地よいこと、(2.1.1.6) 特徴の大悲者を特に信樂すること。⁽²⁷⁾

2.1.2. 縁を断つこと

(2.1.2) 第二。縁切りには六つある。(2.1.2.1) 外縁について。借金は外と接着する。近くに縁が来るのを断ち切ること。(2.1.2.2) 内縁について。両親縁戚から離れること。(2.1.2.3) 秘密の縁について。自心の虚偽と穢れをすべて取り去ること。(2.1.2.4) 真義の縁について。尊師の口伝で判断すること。(2.1.2.5) 徴の縁は、心相続に法性の真義を悟得することだと判断すること。(2.1.2.6) 特徴の縁は、境界を仕切って、他者と見えないように実践することである。⁽²⁸⁾

2.1.3. 修道の聖地を探す

(2.1.3) 第三。探すべき聖地は六つある。(2.1.3.1) 外的な聖地は、快適吉祥なのが、成就が得られた〔場所〕を探すべき。(2.1.3.2) 内的な聖地は尊格大悲者の住される場所は、九門のある、この〔人〕身である。(2.1.3.3) 秘密の聖地は心、貴い *citta* に自心が始源から清浄なものとして本来から住しているということを目指す。(2.1.3.4) 真義の聖地は、見解が、恒常論と断滅論の何にも陥らないで住することである。(2.1.3.5) 徴の聖地は、瞑想の時に、眠気と散漫の二つに陥らずに、智慧が明瞭で清浄であること。(2.1.3.6) 特徴の聖地を行ずることは我他の二〔別〕に陥ることなく、不二双入に住することである。⁽²⁹⁾

2.1.4 必需品

(2.1.4) 第四。必需品を集めることに六つある。(2.1.4.1) 外的には、生活物資の必需品は、食料・飲料・衣料・座敷などを上げることを集める。(2.1.4.2) 内的には、病氣治療のための必需品は、治療薬などを集めること。(2.1.4.3) 秘密には、敵・妨害から護るための必需品は、物資、真言、武器などを集めること。(2.1.4.4) 真義の必需品は、数多くのみ教えの經典と師匠の口伝を集めること。(2.1.4.5) 徴の必需品は、自心を大悲者として同定することである。(2.1.4.6) 特徴の必需品は大悲者の成就と〔師匠の〕奥義・秘伝の完成を集めることである。⁽³⁰⁾

2.1.5 眷属との縁結び

(2.1.5) 第五。眷属の縁に入るには六つ。(2.1.5.1) 外の眷属は、支度・備蓄を供給する後援者で、信心を持った者が仕える。(2.1.5.2) 内の眷属は、付き人。良い性質で、よく精進した者が仕える。(2.1.5.3) 秘密の眷属は、種好を備えた性瑜伽女 (phyag rgya

ma) 一一味を伴って-に依拠する。(2.1.5.4) 真義の眷属は見解に確信を持っている者に依る。(2.1.5.5) 徴の眷属は修習経験した者に依る。(2.1.5.6) 特徴の眷属は行を伴った者が仕える⁽³¹⁾。

2.1.6. 障害・厄災を除くための加持

第六。成就へに障害・厄災 (bar chad) 生じないようにするために、加持する前行には六つ。(2.1.6.1) 外的には、師匠 (bla ma) が加持する。最初だけ、どんなに説法し、瞑想しても、眼前の虚空に蓮華座を感想する。自身の根本ラマと釈迦牟尼仏は別ではなく、系譜のラマたちは仏と菩薩の姿でお座りになっていると観想する。(2.1.6.2) 内的には、守護尊 (yi dam) によって加持する。ラマの右側の蓮華において、大悲心者を五部の仏が周回していると観想する。(2.1.6.3) 秘密には、五部の虚空女が加持する。ラマの左側に秘密智の虚空女に虚空ダーカの五部が周回していると観想する。彼らに、請願することによって、我と他を加持すると観想する。(2.1.6.4) 真義の法性を悟得する知見によって加持する。法性は無造作、無戯論、離極、無蓋、不変の確信を以って、我と他を加持する。(2.1.6.5) 徴は、明知を無執着の修習によって加持する。明知は明瞭で無蓋、不変の確信によって、我と他を加持する。(2.1.6.6) 特徴は、平等、無偏向の行によって加持する。我と他の派がないという確信によって、我と他を加持する⁽³²⁾。

2.2 根本次第 (本行)

第二。本行は、真義の在り方を確立するために、(2.2.1) 瞑想する際に何を瞑想するのか。六輪を修習せよ。(2.2.2) 実践には、何を実践するのか。六つの実践法 (khyer so) を取るべきである。(2.2.3) 集約は、どこに集約するのか。六つの意図に集約せよ。(2.2.4) 何を導入するのか。六つのバルド (中有) を導入せよ。(2.2.5) 解脱の要は何か。見解と瞑想の六つの意図に解脱する。(2.2.6) 何を超える (la bzlo) のか。六つの不実 (mi bden pa) を超える。最後に (mjug la)、業の周縁をどのように説明するのか。骨子の六つの助言によって説明する⁽³³⁾。

2.2.1 六輪

2.2.1.1. 生起次第—三摩耶薩捶輪

さて、六輪における生起次第の三摩耶薩捶輪の修習は、阿毘菩提 (mnngon par byang chub) の五相と加持との六つで説示する⁽³⁴⁾。

2.2.1.1.1 空性に基づく阿毘菩提

第一に、空性に基づいて、菩提は恒常の極を取りさっている。刹那からこのように顕

『マニ・カンブン』における観自在菩薩の「六字真言成就法」(横殿伴子)

現している一切諸法は本質がなく空である⁽³⁵⁾と瞑想する。

2.2.1.1.2 利他に基づく阿毘菩提

第二に、利他に基づいて、阿毘菩提は、断滅論の極を取りさっている。空性を悟得しない一切衆生に遍く悲 (snying rje)⁽³⁶⁾ を修習する。

2.2.1.1.3 日月蓮華座に基づく阿毘菩提

第三。日月蓮華座席に基づく阿毘菩提は、「パム」から一千花卉のついた紅蓮華を観想する。「ア」から月の座席を、「マ」から日の座席を⁽³⁷⁾観想する。

2.2.1.1.4 真言手印に基づく阿毘菩提

第四。字〔真言〕手印に基づく阿毘菩提は、日月蓮華の座席の上で、「フリー hrih」の白光を勧請して、手印は白蓮華であると観想する。⁽³⁸⁾

2.2.1.1.5 身の完成に基づく阿毘菩提

第五。御身体の完成に基づく阿毘菩提は、手印光を勧請した後、本性 (bdag nyid) が一顔四手の大悲者は、白く輝いている御身体は、氷雪に太陽が昇っているようである。種々の宝石で荘厳され、お顔は微笑まれている。第一手の右手は真珠の首飾り〔を持ち〕、第一手の左〔手〕は蓮華の茎を〔持ち〕、残りの二〔手〕は胸で合掌している。御足を平衡に交差してお座りになっている。顕現には自性がなく、水〔に映る〕月のようだと観想する。⁽³⁹⁾

2.2.1.1.6 身口意加持と印可

第六は身口意を加持し、封印すること。頭上で、四つの車輪の輻 (や) の中心に、白い「オーン」。喉で、蓮華の四花卉の中心に、赤い「アーハ」。心臓で交差した金剛の中心に青い「フーン」。臍で、月の曼荼羅の上に白い「フリー」に六字が周回していると観想する (思い描く)。頭上で「フリーヒ」の白字の勧請から金剛の鎧を⁽⁴⁰⁾観想する。それ自身の極に火炎が周回していると観想して、印可する。

2.2.1.2 究竟次第—智慧薩埵輪—

第二。究竟次第は智慧薩埵輪を修習すること。六次第で説示する。⁽⁴¹⁾

2.2.1.2.1 勧請次第

第一に、勧請次第は、三摩耶〔薩埵〕の大悲者の御胸の「フリーヒ」から放たれた光

『マニ・カンブン』における観自在菩薩の「六字真言成就法」（楨殿伴子）

線によって、智慧薩埵を招喚し、前方の虚空にお座りになっていると観想する。⁽⁴²⁾

2.2.1.2.2 礼拝次第

第二。礼拝次第は、三摩耶薩埵が智慧薩埵に先に礼拝する。智慧薩埵は後で礼拝すると観想する。⁽⁴³⁾

2.2.1.2.3 供養次第

第三。供養次第は、五供物などで、三摩耶薩埵が智慧薩埵を供養する。⁽⁴⁴⁾

2.2.1.2.4 不二融解次第

第四。不二融解次第は、三摩耶薩埵の御胸心の「フリーヒ hriḥ」から光線が生起し、尊神智慧薩埵が三摩耶薩埵に融解する。水と牛乳が混ざったように不二だと観想する。⁽⁴⁵⁾

2.2.1.2.5 灌頂次第

第五。灌頂次第は、御胸心の「フリーヒ hriḥ」から放たれた光が手前の虚空に五部 (rigs lnga) を勧請する。供物を捧げる。御胸心から個々の女尊が発出し灌頂する。甘露水が頭上から流れ出て身体に遍満したとき、穢れが清まり、灌頂を得たと観想する。⁽⁴⁶⁾

2.2.1.2.6 五部仏が封印すること

第六。五部仏が封印すること (rgyas gdab pa)。冠を五部仏が荘厳していると観想する。灌頂の徴として前側に阿弥陀仏がお座りになっていると観想する。⁽⁴⁷⁾

2.2.1.3 真言輪

第三。六つの真言輪のうち、⁽⁴⁸⁾

2.2.1.3.1 外：経典のように利他念誦

第一に、外的には、経典と同様に、利他のために念誦すること。六字真言「オン・マ・ニ・ペ・メ・フーン」を賢者が法螺貝を吹くように、旋律と声を大小にして誦したとき、六字真言の声を聞いた人はすべて障蓋 (sgrib pa) が浄まると観想する。⁽⁴⁹⁾

2.2.1.3.2 内：密教：接近念誦成就・観想念仏

第二。内的には、密教のように、接近念誦成就・観想念仏 (sevāsādhana, bsnyen sgrub) の方法で念誦すること。智慧薩埵と三摩耶薩埵の二つに分かれる。三摩耶薩埵の胸心から、智慧薩埵の胸心に当たることによって、身語心を愉しませる供物をお供えて〔身語心が〕お愉びになっていると観想する。智慧薩埵の胸心から三摩耶薩

唾の胸心に当たったとき、成就を得たと観想する。「オーン・マ・ニ・ペ・メ・フーン」が薪の火のようにあちこちに〔火花を〕散らして間断なく、大小の音が、笛を奏でるように、調べを伴って、念誦する。⁽⁵⁰⁾

2.2.1.3.3 秘密：虚空女の加持：シンボル

第三。秘密には、虚空女が加持をする。シンボルの方法で念誦すること。「オーン・マ・ニ・ペ・メ・フーン」〔と念誦する〕。虹の光線のように、御胸心の「フリーヒ hriḥ」から虚空女の在り処に発出するとき、虚空女の在り処から自在なく虚空に行つて、自他の身口意の三〔業〕に加持すると観想する。声を強く、太鼓を鳴らすように念誦する。⁽⁵¹⁾

2.2.1.3.4 師匠と本尊の勧請：母親を息子が呼ぶような仕方の念誦

第四。師匠と本尊を勧請する。母親を息子が呼ぶ方法で誦する。「オーン・マ・ニ・ペ・メ・フーン om ma ni pad me hūṃ」と誦するとき、胸心の「フリーヒ hriḥ」から光線が放たれ、師匠・守護尊・虚空女に当たる。母親が息子を愛しく思うように、目前の虚空に行つて、私に加持し、障害・厄災 (bar chad) を除去すると観想する。煌きをもった声がタンブーラを掲揚するように変化しながら念誦する。⁽⁵²⁾

2.2.1.3.5 障蓋の浄化法の仕方での念誦

第五。障蓋 (āvaraṇa, sgrib) を浄化する法を实践する方法で誦すること。舌は蓮華の第六花卉〔である〕。〔その〕中心に「フリーヒ hriḥ」〔がある〕。六花卉を六字真言だと観想する。明瞭で、清浄な魅力的な波を伴って、賢者が声を出して唱えるように、「オーン・マ・ニ・ペ・メ・フーン」を念誦する。⁽⁵³⁾

2.2.1.3.6 金剛念誦：瞑想定の方法での念誦

第六。金剛の念誦は瞑想定の方法で誦する。「オーン・マ・ニ・ペ・メ・フーン」と誦し、身口意の三〔業〕を等持の禪定において、意で誦を為す。心を無分別状態に置く。口は語なく、混ざることなく、発語をやめる。意は明瞭で、散漫になることなく誦するとき、心に楽と明瞭の体験が現れる。⁽⁵⁴⁾

2.2.1.4 心空性輪

第四。心は空性であるという輪に六つある。⁽⁵⁵⁾

2.2.1.4.1 外：現象は空

外的な現象は空だと同定すること。六根・六識の対象の現れ一切は自性なく、現れは

その場で自然に空と置く⁽⁵⁶⁾。

2.2.1.4.2 内：分別は空

第二。内の分別は空であると同定する。分別のこの動きの本質 (ngo bo) は空 (stong pa) であるので、自ずから清浄 (rang dangs) で自解脱 (rang grol)、空だと置く (stong par bzhag)⁽⁵⁷⁾。

2.2.1.4.3 秘密：五毒は空

第三。秘密。五毒は空だと同定する。五毒の根は空である。不動、不変。生 (skyes pa) から解脱している。同時に、不捨 (mi spang)、不住 (mi gnas) であるものとして空だと同定する⁽⁵⁸⁾。

2.2.1.4.4 真義：知見の空

第四。真義。知見は空。心の本性の核は空 (sems nyid ngo bo stong pa)、[両] 極から離れている。所依がないものとして同定する⁽⁵⁹⁾。

2.2.1.4.5 徴：心の本性の空の修習

第五。徴は、心の本性の空の修習 (sems nyid stong pa sgom pa) は、明瞭だが執着なきもの (gsal la 'dzin med) として同定する⁽⁶⁰⁾。

2.2.1.4.6 特徴：明知と空は不分離

第六。特徴は、明知と空は不分離 (rig stong dbyer med)。時 (dus) は常に (rtag tu) それ (de) と関係しないもの (mi 'brel ba) として同定する⁽⁶¹⁾。

2.2.1.5 甘露薬輪

第五。食物。甘露薬の輪に六つある⁽⁶²⁾。

2.2.1.5.1 外の食物聚輪

外の食物としての甘露薬 (bdud rtsi sman) の輪 ('khor lo) は、食物聚 (御仏飯) (zas tshogs) を神 (lha) に献納すること。[仏] 飯 (zas) を「オン・アーハ・フーン om āḥ hūm」で加持する。尊い師匠を供養する。守護尊 (yi dam)、虚空女 (mkha' 'gro) を供養する⁽⁶³⁾。

2.2.1.5.2 内の食物聚輪

第二。内の食物聚の輪は、食物を甘露として加持する (zas bdud rtsir byin gyis brlabs)。⁽⁶⁴⁾ 守護尊と虚空女を供養する。

2.1.5.3 秘密の食物聚輪

第三。秘密の食物聚の輪は、食物甘露に加持する。左手は官能五女尊 (dod yon gyi lha mo lnga) が自分自身を大悲心者として (rang thugs rje chen po) を供養する。⁽⁶⁵⁾

2.1.5.4 真義の食物聚

第四。真義の食物聚。穢れなき甘露食物 (zas bdud rtsi dri ma med pa) は法性の遊戯 (chos nyid kyi rol pa) に執着なきものとして供養する。⁽⁶⁶⁾

2.1.5.5 微の食物聚

第五。微の食物聚は食物・明知・智の遊戯 (zas rig pa ye shes ki rol pa) は止むことなく顕現するので、非事物の中で行ずる。⁽⁶⁷⁾

2.1.5.6 特徴の食物聚

第六。特徴の食物聚 [について]。食物の現れは自由に拡大する (zas snang bargya yan)。飲食物一切は自生自現なもの (rang byung rang shar) として供養する。⁽⁶⁸⁾

2.2.1.6 安らぎの行道輪

第六。安らぎの行道の六輪 [について]。⁽⁶⁹⁾

2.2.1.6.1 安らぐ住処

第一。安らぐ住処は山の隱遁所 (ri khrod) か寺院 (dgon pa) か森林 (nags khrod) か人里離れた所 (dben pa) に依拠する。⁽⁷⁰⁾

2.2.1.6.2 安らいだ身体

第二。安らいだ身体は、どんな行道 (spyod lam) でも楽に (bder) 担う。⁽⁷¹⁾

2.2.1.6.3 安らぐ語

第三。安らぐ語は、なんでも楽に言い、実践の歌 (nyams dbyangs) として実践する。⁽⁷²⁾

2.2.1.6.4 安らいだ心

第四。安らいだ心 (安心) は、造作なく (ma bcos)、自解脱 (rang grol)、自然に置かれる (lhug par bzhag)。⁽⁷³⁾

2.2.1.6.5 安らぎの行道

第五。安らぎの行道は造作なく、自現から離れずに (rang shar dang mi 'bral bar)、

道に担われる。⁽⁷⁴⁾

2.2.1.6.6 安らぎの悲／安らぎの廻向⁽⁷⁵⁾

第六。安らぎの悲は、一切衆生を想うべきである。⁽⁷⁶⁾第六。安らぎの廻向は、三輪の特徴は自解脱に置く。⁽⁷⁷⁾

2.2.2 何を実践するのか

第二の一般項目。何を実践するのか。六つの方法・相（khyer so rnam pa drug）を実践する。(1) 身体は尊格として把握すること、(2) 口は真言として把握すること、(3) 意は法性（yid chos nyid）として把握すること、(4) 顕現は〔仏〕身として把握すること、(5) 声は〔仏〕語として把握すること、(6) 念と分別（dran rtog）は御心⁽⁷⁸⁾（thugs）として把握することである。

2.2.2.1 身体を本尊として理解すること

第一に、身体は本尊として理解すること。自分自身を大悲者として瞑想する。現象には自性が⁽⁷⁹⁾ないと理解すること。

2.2.2.2 語は真言と理解すること

第二。語は真言と理解すること。「オーン・マ・ニ・ベ・メ・フーン」という六字真言を誦することによって、声は空となり、木霊のようだと理解すること。⁽⁸⁰⁾

2.2.2.3 意は法性としての理解

第三。意は法性の理解。意は自解脱、自然に明瞭で、無分別に置かれている。⁽⁸¹⁾

2.2.2.4 現象は仏身

第四。現象は仏身の理解。現象はいかなる現象も一切が大悲者の仏身の本質だと理解する。⁽⁸²⁾

2.2.2.5 声は六字真言の声として理解する

第五。声は〔仏〕語として理解すること。聞こえる声一切は六字真言の声として理解すること。⁽⁸³⁾

2.2.2.6 想念は仏心として理解すること

第六。念・分別は〔仏〕心として理解すること。何を念じても、何が動いても一切は

『マニ・カンブ』における観自在菩薩の「六字真言成就法」（楨殿伴子）

自ずから現れ、自解脱する法性として理解すること。⁽⁸⁴⁾

2.2.3 六肝要

第三項目。要約すると、何に要約されるか。六つの意図に要約すると、〔以下のようになる〕⁽⁸⁵⁾。

2.2.3.1 区分：六字真言

第一。区分の意味を意図すると、六字真言に要約される。「オーン・マ・ニ・ペ・メ・フーン」は、「オーン」は五智に要約される。「マ」は一切に遍満する悲心を、「ニ」は輪廻が自ずと解消・反転することを、「ペ」は、方便と慧を、「メ」は智が自ずと明瞭となることを、「フーン」は金剛のように不変化という〔意味の〕字である。⁽⁸⁶⁾

2.2.3.2 要約した意味：六字真言を三つに要約する

第二。意味の要約を意図すると、六字真言は三つにまとめられる。「オーン・マ・ニ・ペ・メ・フーン」という六字のうち、「オーン」と「フーン」の間の四字は「アーハ」にまとめられる。「アーハ」は不生として要約される。三字に要約するなら、「オーン・アーハ・フーン」〔に要約される〕。風を与えるのが「オーン」。住するのが「アーハ」。⁽⁸⁷⁾ 入るのが「フーン」。「このように、」「オーン・アーハ・フーン」に要約される。

2.2.3.3 実践：身口意の要約

第三。実践を意図すると、身口意の三〔業〕は、果として、三身に要約される。身は本尊の姿勢を、口は金剛界を、心は無分別と離戲論である。⁽⁸⁸⁾

2.2.3.4 加持：スヴァスティカ（鉤十字）

第四。加持を意図すると、巻かれたスヴァスティカとして要約される。自身の前の虚空に、左巻の智の赤いスヴァスティカに心を打ち立てる。真髓（snying po）は中立の（ma ning）方法で誦するとき、身体に楽が燃え立ち、加持する。口に能力が燃え立ち、加持する。⁽⁸⁹⁾ 心に理解が燃え立ち、加持する。

2.2.3.5 心の統一：赤い滴に集約する

第五。心を統一することを意図すると、赤い滴（thig le dmar po）に集約される。芯－開いた蓮華－の中に、赤い滴－一粒の中国豆ほど－が住する。菩提心の拠り所である。それで心が確立され、念誦する。⁽⁹⁰⁾

2.2.3.6 如実：あるがままのあり方・基

第六。「そうであること如実」(de kho na)を意図すると、あるがままのあり方・基の内に集約される。三門の努力が緩和され、あるがままのあり方が自然に置かれる。分別が伴う。造作ない内に置かれる。⁽⁹¹⁾

2.2.4 六中有

第四項。どこに導入・同定するのか。六中有に導入する。⁽⁹²⁾

2.2.4.1 自性を住处とする中有

第一。自性を住处とする中有は、母親の膝から息子が擦り落ちるようである。母親－遍満する、ものごとのあるがままのあり方－から、息子－明知 (rig pa) の一片を切断するとき、母子のシンボル (brda) が結ばれて、輪廻と涅槃が分かれる。心は仏と同定する。⁽⁹³⁾

2.2.4.2 生死の中有

第二。生死の中有は、ハゲタカの子供を母親が育てるようである。師匠の口伝を階梯通りに習熟することによって、堅固になる。明知の力 (rig pa rtsal) が向上して、清浄になるので、六道の崖を恐れることはない。⁽⁹⁴⁾

2.2.4.3 前後の認知の中有

第三。前後の認知の中有は、暗闇の穴でランプを照らすように、明知が輝く。分別が智慧として輝き、法性が途切れることなく同定する。⁽⁹⁵⁾

2.2.4.4 夢の中有

第四。夢の中有は、悪い源 (khungs) に借財の戻しを得るよう⁽⁹⁶⁾に習熟することによって、堅固な徴が現れるので、夢と生存の中有は似ているので、不安のない確信を得るとき、自在力が自分に有ると同定する。⁽⁹⁷⁾

2.2.4.5 臨終時の中有

第五。臨終時の中有は、優しい叔母の家に孫息子が行くようである。前〔行〕で師匠の口伝に習熟することで堅固を獲得した後、死を喜んで、腹立たない。不明瞭な認知が明瞭なものとして同定する。⁽⁹⁸⁾

2.2.4.6 生存（輪廻転生へ）の中有：上中下品

第六。生存の（輪廻転生へ向かう）中有は、曲がった感慨用水路を切ると、狐を刺し

ていることに似ている。吐く息は止まるが、内側の息は止まらない。法性が持続的に堅固である。高品はそれで解脱する。中品は中有を知ることによって、解脱する。下品は中有で本尊 (lha) が授記して、解脱する。機根が上・中・下の三品の解脱の方法である。⁽⁹⁹⁾

2.2.5 肝要：どこで解脱するか：見解と瞑想の教示

第五項。肝要：どこで解脱するか。見解と瞑想の六つの教示において解脱する。⁽¹⁰⁰⁾

2.2.5.1 凡夫・人のとき

第一に、[凡夫としての] 人のときに、行為の網に入るな。聴聞と熟考で、心 (blo) の網を除去して、法の理解によって、表層を断ずる。⁽¹⁰¹⁾

2.2.5.2 見解のとき

見解のとき、白いライオンは鉄の鎖で縛られていない。不安と恐怖がなく、法性の確信を備えるべきだ。⁽¹⁰²⁾

2.2.5.3 瞑想のとき

瞑想のときに、白い水晶-泥に入らず、明知 (rig pa) が明瞭・清浄の清めをすべきである。⁽¹⁰³⁾

2.2.5.4 浄化するとき

浄化するとき、酔象が害さない。判断・造作なく、自由のままである。⁽¹⁰⁴⁾

2.2.5.5 果のとき

果のとき、如意宝珠は自身にあるのであって、他から探すのではない。始源から清浄な法身の智として同定する。⁽¹⁰⁵⁾

2.2.5.6 口伝のとき

口伝のとき、智慧の眼は視界を失わない。法性母子が同定される。⁽¹⁰⁶⁾

2.2.6 六つの不真実

第六項目は、何を超越するのか。六つの不真実を超越する。⁽¹⁰⁷⁾

2.2.6.1 仏の悲心

第一。仏の悲心は不真実。法身、無分別に智 (ye shes) と認知力 (shes pa) の両者

ともない。⁽¹⁰⁸⁾

2.2.6.2 衆生の業

第二。衆生の業は不真実。明知 (rig pa) は不生、空だけとしても成立しない。どこにも成立せず、明瞭である。三時における因と条件を断つ。⁽¹⁰⁹⁾

2.2.6.3 偶発的条件

第三。客的・偶発的条件は不真実。法性は空。[そこ]に樂と不樂の因はない。⁽¹¹⁰⁾

2.2.6.4 有為法

第四。有為法は不真実。一切の行 (saṃskāra) は滅する。無常で意味がない。⁽¹¹¹⁾

2.2.6.5 努力によって成就しようとする道

第五。成就すべき道は不真実。努力して成立する一切は欲の道によって、縛られる。⁽¹¹²⁾

2.2.6.6 所得の果

第六。所得の果は不真実。一切の宗義は心 (blo) [から出た] 欲である。心 (blo) は変化するので、果は変化する。⁽¹¹³⁾

Ⅲ. 業聚の支部の説明

最後に、業聚 (las tshogs) の支部を説明する。⁽¹¹⁴⁾

3.1 所依の六法

3.1所依の六法は、(3.1.1) 奉獻、(3.1.2) 供物、(3.1.3) 讚嘆、(3.1.4) 勸請、(3.1.5) 熱い塩、(3.1.6) 御本尊の洗浄の六つである。⁽¹¹⁵⁾

3.2 聴聞の六法

聴聞の六法は、(3.2.1) 灌頂、(3.2.2) 命の成就、(3.2.3) 加持、(3.2.4) 杖を使った秘儀 (dbyug chos)、(3.2.5) ヤントラ (srung 'khor)、(3.2.6) 病気の治療の六つである。⁽¹¹⁶⁾

3.3. 死者への利益 (葬送儀礼)

死者を利益する六法は、(3.3.1) 屍体の洗浄、(3.3.2) 壺の浄化、(3.3.3) 屍体の焼却、(3.3.4) 名号の刻印と浄化 (3.3.5)、入墓、(3.3.6) 陰膳の六法。⁽¹¹⁷⁾

3.4 仏の活動

六活動は、(3.4.1) 寂靜、(3.4.2) 増益、(3.4.3) 灌頂・力、(3.4.4) 降伏、(3.4.5) 護摩、(3.4.6) 教化・制圧⁽¹¹⁸⁾

3.5 密教の六奥義

密教の六奥義は、(3.5.1) ツアルン、(3.5.2) ボワ (遷移)、(3.5.3) トンジユク (入体) (3.5.4) ギユル (幻身)、(3.5.5) ウセル (光明) (3.5.6) トウンモ (内熱・チャンダーリーの火) の六つである。⁽¹¹⁹⁾

3.6 瞑想と瞑想の合間に行う六法

〔瞑想と瞑想の間の〕間隙に行う六法は、(3.6.1) 七支部、(3.6.2) マンダラ、(3.6.3) 浄水、(3.6.4) 圍繞、(3.6.5) トルマ、(3.6.6) 水トルマ⁽¹²⁰⁾

業の周縁一切

業の周縁一切は、その各々が外、内、秘密、真義、微、特徴の六つずつで説明される。⁽¹²¹⁾

奥書

大悲心如意宝珠莊嚴六字真言權化章。大悲心の化身護法王ソンツェンガンボ作。⁽¹²²⁾

注

- (1) MKB (S, e, p. 424.1).
- (2) MKB (S, e, pp. 424.4-425.2).
- (3) MKB (S, e, pp. 425.6- 426.1).
- (4) MKB (S, e, p. 462.2-3).
- (5) MKB (S, e, p. 426. 4-5).
- (6) MKB (S, e, pp. 426.6-427.1).
- (7) MKB (S, e, p. 427.2-4).
- (8) MKB (S, e, pp. 427.4-428.4).
- (9) MKB (S, e, p. 429.2-4).
- (10) MKB (S, e, p. 434.6): yid chos nyid kyi 'khyer so; MKB (S, e, p. 595.2): sems chos nyid du grol te.
- (11) MKB (S, e, p. 438.3): blo 'gyur bas 'bras bu 'gyur ba yin.
- (12) MKB (S, e, pp. 432.5-433.1). プナカ版では、「母親は息子を呼ぶ」と読解することも可能である。その方が、母親が息子に注ぐ愛情についての文脈に沿っているようにも思われる。その場合、自力と他力のどちらでも解釈可能となるの

ではないだろうか。

- (13) MKB (S, e, p. 433.2-4).
- (14) MKB (S, e, p. 436.3-4). 『マニ・カンブン』における中有についての解説によると、輪廻の主体は明知である。
- (15) MKB (S, e, p. 434. 5).
- (16) MKB (S, e, p. 434.3): bzhi pa sems bag yangs ni | ma bcos rang grol lhug par bzhag go ||
- (17) MKB (S, e, p. 434.6): gsum pa yid chos nyid kyi 'khyer so ni | yid rang grol rang gsal rtog med du bzhag go ||
- (18) MKB (S, e, p. 437. 5-6).
- (19) 「入体」の章はソンツェンガンボ王の前世譚（ジャー・タカ）の一つを構成する (S, e, pp. 293.3-297.3)。「バルド」は、「六字真言成就法」で説かれる六項目の一つとしてのバルドが「口伝巻」でさらに詳細に解説されている (S, wam, p. 404.4-416.5)。「ポア」は、「口伝巻」(S, wam, pp. 417.1-420.5)においても説示されている。六中有は、「六字真言成就法大註釈」にさらに解説されている (S, e, pp. 571.3-577.2)。「護法王ソンツェンガンボ王の業績と伝記」章に「『聖秘密集会』の曼荼羅」(dpal gsang ba 'dus pa'i dkyil 'khor) が言及されている (S, e, p. 278.6)。ナーローの六法と『秘密集会』の関係については、平松1986；苦米地1992；渡邊2014を参照した。「ナーローの六法」がツォンカパへ至る系譜についてはツルティム・ケサン／山田1999を参照した。『マニ・カンブン』における「ナーローの六法」については、稿を改めて論じる。
- (20) MKB (S, p. 434.5; D, fol. 251b2).
- (21) 試訳には、ブナカ版 (S, pp. 424.1-439.1) とデルゲ版 (fols 247b1-253a4) を用い、ジェブン版 (fols. 286a1-292b4) も参照し、異読を付した。
- (22) MKB, (S, e, p. 424.1-3): om ma ñi pad me hūm | rgya gar skad du | sha ṭa [ta S] kṣa ri sâ [sa S] dha [ta S] na nā ma | gu ru de wa ḍa ki ñi [ñi S] na mo | bod skad du | yi ge drug pa'i sgrub thabs zhes bya ba | bla ma yi dam mkha' 'gro la phyag 'tshal lo | bde gshegs [D, fol. 247b2] thugs kyi nying khu || gsal byed sgron ma'i rde skor || dmar khrid zhal gyi gdams pa || mun pa sel ba'i sgron me || 'khor 'das gnyis kyi gegs sel || theg pa yongs kyi lde mig || mkha' 'gro ma'i gsang skor || thugs rje chen po yid bzhin nor bu'i rgyan | 'phrul gyi dum bu zhes bya [D, 247b3] ba'i skor ro [skor S] ||
- (23) Ibid. (p. 424.3-4): spyir thugs rje chen po la gnyis | chos nyid don gyi thugs rje chen po dang | thugs rje sprul ba'i thugs rje chen po'o || chos nyid don gyi thugs rje chen po la gnyis | tshul gsum gyis gzhi gtan la dbab pa dang | skor

- gsum gyis nyams su blang ba'o ||.
- (24) Ibid. (pp. 424. 4-425.2): dang po tshul gsum gyis gzhi gtan la da bab pa la | sangs rgyas gzhi'i 'dug tshul | [omit. | S] gnas lugs chos sku'i tshug rje chen po ni [insert. | S] gzhi ming 'dogs thams chad dang bral ba | phyogs lhung rgya chad med pa | [omit. | S] gnas lugs gtan la phab ste ngo sprad | gang zag lam gyi 'kyer tshul | sgom pa lam gyi thugs rje [D, 247b5] chen po ni | rol pa'i 'char thsul ma 'gags pas [pas B, 不明 D, par S] | gzhi'g 'brel sems la btang nas | [omit. | S] rang sems thug rje chen por ngo sprad | 'bras bu 'char ba'i 'chad tshul | mthar thug 'bras bu'i thug rje chen po ni | sku gsum rang gi rig pa la 'char bar [ba S] 'gag bsdam [sdam S] mo ||.
- (25) Ibid (pp. 425.2-5): skor gsum gyis [D, 247b6] nyams su blang ba ni | phyi skor phyi ru bskor te | da ltar gyi dbang po tshogs drug gi snang ba 'di thams cad thugs rje chen po'i rol pa'am rgyan yin pas [insert. | S] rang shar rang grol du ngo shes par bya | nang skor nang du bskor te [insert. | D] nang gi rig pa gtan la dbab pa ni | dran rtog sna tshogs kyi 'gyu byed 'di | thugs rje [D, 248a1] chen po'i ye shes su ngos bzung nas | rang byung rang dangs su gtan la dbab pa'o || gsang skor gsang bar bskor te chos nyid ma bu brda sbyar ba ni | ma chos nyid thugs rje khyab gdal chen po [po D, mo S] las | [omit. | S] bu rnam rtog dug lnga rtsal du shar | ma pang du bu thim pas [insert. | D] rang skyes rang [D, 248a2] thim du brda sbyar ro ||.
- (26) Ibid. (p. 425.5-6): thugs rje sprul ba'i thugs rje chen po la | [omit. | D] sgrub pa'i sngon 'gro dang [insert. | D] | dngos gzhi gnyis las | sngon 'gro la drug ||.
- (27) Ibid. (pp. 425.6-426.1): dang po thugs rje chen po sgrub pa'i rten gyi gang zag ni [insert. | D] mtshan nyid drug ldan te | phyi rigs rgyud bzang zhing ngang rgyud ring ba | nang chos nyid rtogs pa'i [D, 248a3] shes rab che ba | gsang ba rig pa'i rtsal che ba | don phyogs su ma lhung ba'i snying rje chen po yod pa | rtags chos la the tshom med cing [insert. | D] kun la mthun snang yid du 'ong ba | mtshon pa'i thugs rje chen po la khyad par du mos pa'o ||.
- (28) Ibid. (p. 426.2-4): gnyis pa 'brel pa bcad pa la drug || phyi'i 'brel pa bu lon phar [D, 248a4] chags tshur 'brel 'ong ba bcad | nang gi 'brel pa pha ma bu tsha nye 'brel las thag sring | gsang ba'i 'brel pa rang gi sems kyi g.yo sgyu dang dri ma thams cad spangs | don gyi 'brel pa bla ma'i gdams ngag gis thag bcad | rtags kyi 'brel pa rgyud la chos nyid kyi don rtogs par thag bcad | [D, 248a5] mtshon pa'i 'brel pa mtshams bcad nas [insert. | D] gzhan dang mi 'phrad par nyams su blang ngo ||.

- (29) Ibid. (p. 426.4-6): gsum pa gnas btsal ba la drug las | phyi'i gnas nyams dga' ba bkra shis pa | [omit. | S] dngos grub thob pa btsal | nang gi gnas ni lha thugs rje chen po'i bzhugs gnas lus sgo dgu yod pa [dgu yod pa D, dgu pa S] 'di yin [D, 248a6] no || gsang ba'i gnas snying tshitha [tsitta S] rin po che na rang sems ka dag tu ye nas gnas pa la bya'o || don gyi gnas lta ba rtag chad gang du yang ma shor bar gnas pa'o || rtags kyi gnas bsgom pa bying rgod gnyis su ma shor bar ye shes gsal dag tu gnas pa'o || mtshon pa'i gnas spyod pa bdag [D, 248b1] gzhan gnyis su ma song bar gnyis med zung 'jug tu gnas pa'o ||.
- (30) Ibid. (pp. 426.6-427.2): bzhi pa mkho ba'i yo byad bsog pa la drug || phyi'i 'tsho ba rdzas kyi yo byad bza' btung gos stan la sogs pa ldang ba bsag || nang nad gso ba'i yo byad sman dang sman dpyad la sogs pa bsag || gsang ba dgra bgegs [D, 248b2] bsrung ba'i yo byad rdzas dang sngags dang mtshon cha la sogs pa bsag || don gyi yo byad du bka' rgya che lung grangs mang yang bla ma'i gdams ngag bsag || rtags kyi yo byad du rang sems thugs rje chen por ngo sprad par bya | mtshon pa'i yo byad du thugs rje chen po'i sgrub thabs dang man ngag tshang bar [D, 248b3] bsag go ||.
- (31) Ibid. (pp. 427.2-4): lnga pa 'khor g.yog gi 'brel pa gzhus pa la drug || phyi'i 'khor g.yog 'tsho ba sbyor ba'i sbyin bdag dad pa can bsten | nang gi 'khor mtshams g.yog pa ngang rgyud ring ba brtson 'grus che ba bsten | gsang ba'i 'khor phyag rgya ma mtshan dang ldan par ro snyoms grogs su bsten | don gyi [D, 248b4] 'khor lta ba gdeng ldan dang bcas pa bsten | rtags kyi 'khor bsgom pa nyams dang bcas bsten | mtshon pa'i 'khor spyod pa grogs dang bcas pa bsten no ||.
- (32) Ibid. (pp. 427.4-428.4): drug pa sgrub pa la bar chad mi 'byung bar bya ba'i phyir byin gyis brlab pa [byin gyis brlab pa D, byin brlab S] sngon du 'gro ba la drug || phyi bla mas byin gyis brlab pa ni | [D, 248b5] dang po kho nar chos bshad pa dang bsgom pa gang byed kyang | mdun gyi nam mkha' la padma'i gdan bsam | rang gi rtsa ba'i bla ma dang sangs rgyas shākya thub pa tha mi dad pa [insert. | S] brgyud pa'i bla ma rnams sangs sgyas dang byang chub sems dpa'i cha lugs [insert. su S] bzhugs par bsams la | 'od zer gyis bdag la byin [D, 248b6] gyis rlob par bsam mo [omit. mo S] || nang yi dam gyis byin gyis rlob pa ni | bla ma'i g.yas phyogs su padma la | thugs rje chen po la rigs lnga'i sangs rgyas kyis bskor bar bsams la gsol ba btab pas [insert. | S] 'od zer gyis bar chad sel bar bsam | gsang ba rigs lnga'i mkha'

'gro mas byin gyis brlab pa ni | bla [D, 249a1] ma'i g.yon phyogs su gsang ba ye shes kyi mkha' 'gro ma la mkha' 'gro rigs lngas bskor bar bsams la | gsol ba btab pas bdag gzhan byin gyis brlabs [brlob S] par bsam mo || don chos nyid rtogs pa'i lta bas byin gyis rlob [brlab S] pa ni | chos nyid ma bcos spros [D, 249a2] med mtha' dang bral ba ma sgribs mi 'gyur ba'i gdeng gis [gdengs gyis D] bdag gzhan byin gyis brlab pa'o || rtags rig pa 'dzin med sgom pas byin gyis brlab pa ni | rig pa gsal la ma sgribs pa mi 'gyur ba'i gdeng gis [gdengs kyis D] bdag gzhan byin gyis brlab pa'o || mtshon pa mnyam pa ris [D, 249a3] med spyod pas byin gyis brlab pa ni | bdag gzhan phyogs cha med pa'i gdeng gis [gdengs kyis D] bdag gzhan byin gyis brlab pa'o ||.

- (33) Ibid. (p. 428.4-6): gnyis pa dngos gzhi don gyi gnas lugs gtan la 'bebs pa la | bsgom na gang sgom 'khor lo drug tu [omit. tu S] bsgom [sgom S] | nyams su gang len na 'khyer so drug len | bsdu na gang [D, 249a4] du bsdu [insert. na S] | [omit. | S] dgongs pa drug tu bsdu | ngo gang du sprod na bar do drug tu ngo sprod | gnad gang du 'grol na lta sgom gyi [sgom gyi D, dgongs kyi S] dgongs pa drug tu 'grol | la gang du bzlo na mi bden pa drug tu bzlo | mjug tu las kyi kha tshar ji ltar bshad na gnad kyi gdams pa drug gis bshad do ||.
- (34) Ibid. (p. 428.6-429.1): de yang 'khor lo rnam pa drug la | [D, 249a5] bskyed pa'i rim pa dam tshig sems dpa' 'khor lo bsgom pa ni | mngon par byang chub rnam pa lnga | byin gyis brlab pa dang drug gis ston te |.
- (35) Ibid. (p. 429.1-2): dang po stong pa nyid las mngon par byang chub pa ni [insert. | S] rtag pa'i mtha' bsal ba yin te | skad cig ma las 'di ltar snang ba'i chos thams cad rang bzhin med par stong [D, 249a6] par sgom mo ||.
- (36) Ibid. (p. 429.2-3): gnyis pa gzhan don las mngon par byang chub pa ni | chad pa'i mtha' bsal [bsal D, gsal S] ba yin te | stong pa nyid ma rtogs pa'i sems can thams cad la khyab pa'i snying rje bsgom mo ||.
- (37) Ibid. (p. 429.3): gsum pa gdan nyi zla padma las mngon par byang chub pa ni || [| D] *paṃ* las padma dmar po 'dab ma stong dang ldan [D, 249b1] par bsam | *a* las zla ba'i gdan | *ma* las nyi ma'i gdan bsam mo ||.
- (38) Ibid. (p. 429.3-4): bzhi pa yig 'bru phyag mtshan las mngon par byang chub pa ni | nyi zla padma'i gdan stengs su *hriḥ* dkar po 'od du zhu bas [insert. | D] phyag mtshan padma dkar por gyur par bsam mo ||.
- (39) Ibid. (p. 429.4-5): lnga pa sku yongs su rdzogs pa las mngon par byang [D,

- 249b2] chub pa ni | phyag mtshan 'od du zhu ba las | bdag nyid thugs rje chen po zhal gcig phyag bzhi pa | sku mdog dkar la 'tsher ba gangs la nyi ma shar ba lta bu | rin po che'i rgyan sna tshogs kyis brgyan pa | zhal 'dzum pa'i mdangs dang ldan pa | phyag g.yas dang po mu tig gi phreng ['phreng S] ba | g.yon dang po [D, 249b3] padma'i sdong po | tha ma gnyis thugs kar thal mo sbyar ba | zhabs mnyam pa'i skyil krung du bzhugs pa | [omit. | D] snang la rang bzhin med pa chu zla lta bur bsgom mo ||.
- (40) Ibid. (pp. 429.6-430.3): drug pa sku gsung thugs byin gyis brlab cing rgyas btab pa ni | spyi bor 'khor lo rtsibs bzhi pa'i lte ba la *om* [om D, o S] dkar po | mgrin par padma 'dab [D, 249a4] ma bzhi pa'i lte ba la *āḥ* dmar po | snying gar [kar S] rdo rje rgya gram gyi lte ba la hūm ngon po | lte bar zla ba'i dkyil 'khor gyi steng du *hriḥ* dkar po la yi ge drug pas bskor bar bsam mo || spyi bor yi ge *hriḥ* dkar po cig [zhig S] zhu ba las rdo rje'i go khrab tu bsam mo || rang gi mtha' ma me dpung gis bskor bar bsams [D, 250.5] la rgyas gdab bo ||.
- (41) Ibid. (p. 430.3): gnyis pa rdzogs pa'i rim pa ye she sems dpa'i 'khor lo bsgom pa ni | [omit. | S] rim pa drug gis bstan te |.
- (42) Ibid. (p. 430.3-4): dang po spyan drang ba'i rim pa ni | dam tshig gi thugs rje chen po'i thugs ka'i *hriḥ* las 'od zer 'phros pas | ye shes kyi thugs rje chen po spyan drangs la mdun gyi nam mkha' la [D, 249b6] bzhugs par bsam mo ||.
- (43) Ibid. (p. 430.4-5): gnyis pa phyag 'tshal ba'i rim pa ni | dam tshig sems dpas ye shes sems dpa' la ngon la phyag 'tshal | ye shes sems dpas phyis phyag 'tshal bar bsam mo ||.
- (44) Ibid. (p. 430.5): gsum pa mchod pa'i rim pa ni | mchod pa rnam pa lnga la sogs pas | [omit. | D] dam tshig sems dpas ye shes [D, 250a1] sems dpa' mchod do ||.
- (45) Ibid. (p. 430.5-6): bzhi pa gnyis su med par bstim pa'i rim pa ni | dam tshig sems dpa' i thugs ka'i *hriḥ* las 'od zer byung nas | lha ye shes sems dpa' dam tshig sems dpa' la thim nas | [omit. | S] chu dang 'o ma 'dres pa ltar gnyis su med par bsam mo ||.
- (46) Ibid. (pp. 430.6-431.2): [D, 250a2] lnga pa dbang bskur ba'i rim pa ni | thugs ka'i *hriḥ* las 'od byung bas [insert. | S] mdun gyi nam mkha' la rigs lnga spyan drangs | [omit. | S] mchod pa phul la | [omit. | D] thugs ka nas lha mo re re spros [sprul S] nas [insert. | D] dbang bskur bas | bdud rts'i'i chu rgyun gyis spyi bo nas lus la khyab pas | sgrib pa dag nas dbang thob par

- bsam mo ||.
- (47) Ibid. (pp. 431.2): [D, 250a3] drug pa rigs lnga'i sangs rgyas kyis rgyas gdab pa ni | dbu rgyan rigs lnga'i sangs rgyas kyis brgyan par bsams la | dbang rtags su mdun ngos sangs rgyas snang ba mtha' yas bzhugs par bsgom mo ||.
- (48) Ibid. (p. 431.2-3): gsum pa ngag sngags kyi 'khor lo la drug las |.
- (49) Ibid. (p. 431.3-4): dang po phyi mdo sde ltar gzhan don du [D, 250a4] bzlas pa ni | *om ma ni padme hūm* | zhes pa'i yi ge drug pa mkhas pa dung 'bud pa ltar [insert. | D] dbyangs skad che chung du bzlas pas | yi ge drug pa'i sgra gang dag [omit. dag S] gis thos pa thams cad kyi sgrib pa byang bar bsam mo || [mo || S, pa D] phyi mdo sde ltar bzlas pa'o ||.
- (50) Ibid. (p. 431.4-6): gnyis pa nang gsang sngags ltar bsnyen sgrub kyi [D, 250a5] tshul du bzlas pa ni | ye shes sems dpa' dang | [omit. | S] dam tshig sems dpa' gnyis su phye la | dam tshig sems dpa'i thugs ka nas | [omit. | D] ye shes sems dpa'i thugs kar phog pas | sku gsung thugs mnyes pa'i mchod pa phul nas mnyes par bsam | ye shes sems dpa'i thugs ka nas dam tshig [D, 250a6] sems dpa'i thugs kar phog pas dngos grub thob par bsams la | *om ma ni padme hūm* | zhes pa mgal me bzhin du phar 'phro tshur 'phro rgyun mi chad par | [omit. | D] skad che chung gling bu 'bud pa ltar 'gyur khugs dang bcas pas bzlas so ||.
- (51) Ibid. (pp. 431.6-432.2): gsum pa gsang ba mkha' 'gro mas byin rlabs brda'i tshul du bzlas [D, 250b1] pa ni | *om ma ni padme hūm* | [omit. | D] zhes pa 'od zer 'ja' tshon lta bu thugs ka'i *hriḥ* las mkha' 'gro ma'i gnas su 'phros pas | [omit. | D] mkha' 'gro ma gnas nas rang dbang med par bkug || mdun gyi nam mkha' la byon nas [insert. | D] bdag gzhan gyi lus ngag yid gsum byin gyis rlob par bsam mo || skad je drag je drag la *ḍa* ma [D, 250b2] ru dkrol [khrol S] ba ltar bzlas so ||.
- (52) Ibid. (p. 432.2-4): bzhi pa bla ma dang lha la gsol ba gdab pa ma la bus [bu S] 'bod kyi tshul du bzlas pa ni | *om ma ni padme hūm* zhes bzlas pas | thugs ka'i *hriḥ* las 'od zer 'phros nas | bla ma yi dam mkha' 'gro la phog pas | mas bu la brtse bar dgongs pa ltar | [omit. | D] mdun gyi nam mkha' la byon nas | [omit. | S] bdag la byin gyis rlob [brlob S] cing bar chad sel bar bsams la | skad gdangs dang bcas pa tambu [ta 'bu S] ra bsgreng [sgreng S] ba ltar bsgyur zhing bzlas so ||.
- (53) Ibid. (p. 432.4-5): lnga pa sgrib sbyong chos spyod kyi tshul du bzlas pa ni | lce padma 'dab ma drug pa dbus na *hriḥ* 'dab ma drug la yi ge drug bsams la

- | gsal la dag pa khugs lding [snyengs S] dang bcas [bcos S] [D, 250b4] pa mkhas pa klog 'don pa ltar | *om ma ni padme hūṃ* zhes bzlas so ||.
- (54) Ibid. (pp. 432.5-433.1): drug pa rdo rje'i bzlas pa mnyam gzhas bsam gtan gyi tshul du bzlas pa ni | *om ma ni padme hūṃ* [insert. | S] zhes bzlas shing lus ngag yid gsum mnyam par bzhag la [insert. | S] yid kyis bzlas pa byas te | [omit. | S] sems rtog med kyi ngang la bzhag | [|| S] ngag mi [D, 250b5] tshig dang mi bsre bar smra ba bcad | yid gsal la ma yengs par bzlas pas sems la bde gsal gyi nyams'char ro ||.
- (55) Ibid. (p. 433. 1): bzhi pa sems stong pa nyid kyi 'khor lo la drug ste |.
- (56) Ibid. (p. 433.1): phyi snang ba stong par ngo sprad pa ni | dbang po tshogs drug gyi yul gyi snang ba thams cad rang bzhin med par snang ba rang sar stong [D, 250a6] par bzhag ||.
- (57) Ibid. (p. 433.2): gnyis pa nang rnam rtog stong par ngo sprad pa ni | rnam rtog gi 'gyu byed 'di | [omit. | S] ngo bo stong pa yin pas [insert. | S] rang dangs rang grol stong par bzhag ||.
- (58) Ibid. (p. 433.2-3): gsum pa gsang ba dug lnga stong par ngo sprad pa ni | dug lnga'i rtsa ba stong pa yin | mi yengs [yengs D, sdang S] mi bsgyur [bsgyur D, bskyar S] | skyes pa dang grol ba dus mnyam | mi spang [spangs S] mi [D, 251a1] gnas par stong par ngo sprad |.
- (59) Ibid. (p. 433.3): bzhi pa don lta ba stong pa | [omit. | S] sems nyid ngo bo stong pa mtha' bral rten med du ngo sprad |.
- (60) Ibid. (p. 433.3-4): lnga ba rtags sems nyid stong pa sgom pa gsal la 'dzin med du ngo sprad |.
- (61) Ibid. (p. 433.4): drug pa mtshon pa rig stong dbyer med dus rtag tu de dang mi 'brel bar ngo sprad do ||.
- (62) Ibid. (p. 433.4) [D, 251b2] lnga pa zas bdud rtsi sman gyi 'khor lo la drug ||.
- (63) Ibid. (p. 433.4-5): phyi zas bdud rtsi sman gyi 'khor lo zas tshogs lha la dbul ba ni | zas *om ah hūṃ* gis byin gyis brlabs la | [omit. | D] bla ma dkon mchod mchod | yi dam mkha' 'gro mchod |.
- (64) Ibid. (p. 433.5): gnyis pa nang zas tshogs kyi 'khor lo la | zas bdud rtsir byin gyis [D, 251b3] brlabs la | yi dam lha dang mkha' 'gro mchod |.
- (65) Ibid. (p. 433.5-6): gsum pa gsang ba zas tshogs kyi 'khor lo la | [omit. | S] zas bdud rtsir byin gyis brlabs la | lag pa gyon 'dod yon gyi lha mo lngas rang thugs rje chen po mchod |.
- (66) Ibid. (p. 433.6): bzhi pa don gyi zas tshogs | zas bdud rtsi dri ma med pa

- [insert.| D] chos nyid kyi rol pa [D, 251a4] la zhen pa med pas mchod |.
- (67) Ibid. (pp. 433.6-434.1): lnga pa rtags kyi zas tshogs [insert. | S] zas rig pa ye shes ki rol pa ma 'gags par snang bas dngos med kyi ngang du spyad |.
- (68) Ibid. (p. 434.1): drug pa mtshon pa'i zas tshogs | zas snang [zas snang D, snang S] ba rgya yan la zas skom thams cad rang byung rang shar du mchod do ||.
- (69) Ibid. (p. 434.1-2): drug pa spyod lam bag yangs kyi [D, 251a5] 'khor lo la drug ||.
- (70) Ibid. (p. 434.2): dang po gnas bag yangs ni [insert.| D] ri khrod dam | dgon pa'am | [omit. | S] nags khrod dam | dben pa brten [brten D, bsten S] no ||.
- (71) Ibid. (p. 434.2): gnyis pa lus bag yangs ni | spyod lam gang bder 'khyer ro ||.
- (72) Ibid. (p. 434.2-3): gsum pa ngag bag yangs ni | ci bder smras la nyams dby-angs su blang ngo ||.
- (73) Ibid. (p. 434.3): bzhi pa sems bag [D, 251a6] yangs ni | ma bcos rang grol lhug par bzhag go ||.
- (74) Ibid. (p. p. 434.3): lnga pa spyod lam bag yangs ni | ma bcos rang shar dang mi 'bral bar lam du khyer ro [khyer D, khyer ro S] ||.
- (75) プナカ版は「安らぎの悲」のみ。デルゲ版は第六項目が「安らぎの悲」「安らぎの廻向」の二つある。
- (76) MKB (S, e, p. 434.3-4; D, e, fol. 251a6): drug pa snying rje bag yangs ni | sems can kun la snyoms par bya'o ||.
- (77) MKB (D, e, fol. 251a6): drug pa bsngo ba bag yangs ni | 'khor gsum mtshan ma rang grol du bzhag go ||.
- (78) MKB (S, e, p. 434.4-5): [D251b1] spyi don gnyis pa nyams su gang len na 'khyer so rnam pa drug nyams su len | lus lha'i 'khyer so | ngag sngags kyi 'khyer so | yid chos nyid kyi 'khyer so | snang ba sku'i 'khyer so | grag pa gsung gi 'khyer so | dran rtog thugs kyi 'khyer so'o ||.
- (79) Ibid. (p. 434.5): dang po lus lha'i 'khyer so ni | [D251b2] rang thugs rje chen por bsgoms la snang la rang bzhin med par 'khyer |.
- (80) Ibid. (p. 434.5-6): gnyis pa ngag sngags kyi 'khyer so ni | *om ma ni padme hūm* | [omit.| D] zhes yi ge drug pa bzlas pas [insert.| D] grag stong brag ca lta bur 'khyer ro || ['khyer ro || D, 'khyer | S] .
- (81) Ibid. (p. 434.6): gsum pa yid chos nyid kyi 'khyer so ni | yid rang grol rang gsal rtog med du bzhag go [bzhag go D, bzhag S] ||.
- (82) Ibid. (p. 434.6): bzhi [D251b3] pa snang ba sku'i 'khyer so ni | snang ba cir

- snang thams cad thugs rje chen po'i sku'i ngo bor 'khyer ro || ['khyer | S] .
- (83) Ibid. (pp. 434.6-435.1): lnga pa grag pa gsung gi 'khyer so ni | sgra grag pa thams cad yi ge drug pa'i sgrar 'khyer |.
- (84) Ibid. (p. 435.1): drug pa dran rtog thugs kyi 'khyer so ni | ci dran ci 'gyus thams cad rang shar rang grol gyi chos nyid du [D251b4] 'khyer ro ||.
- (85) Ibid. (p. 435.1-2): spyi don gsum pa bsdu na gang du bsdu na [bsdu D] | dgongs pa drug tu bsdu ste [bsdu ste D, bsdu S] |.
- (86) Ibid. (p. 435.2-3): dang po dbye ba'i don la dgongs nas yi ge drug la bsdu ba ni | *om ma ni padme hūṃ* | [omit. | D] zhes pa *om* ye shes lngar bsdu | *ma* thugs rje kun la khyab | *ni* 'khor ba rang log || *pad* thabs dang shes rab | *me* ye shes [D, 251b5] rang gsal | *hūṃ* rdo rje lta bu [bur S] mi 'gyur ba'i yi ge'o ||.
- (87) Ibid. (p. 435.3-4): gnyis pa bsdu ba'i don la dgongs te | yi ge drug gsum la bsdu ba ni | *om ma ni padme hūṃ* | [omit. | D] zhes pa'i yi ge drug las | *om* dang *hūṃ* gi bar gyi yi ge bzhi *āḥ* [a D] la bsdu | *āḥ* [a D] skye ba med par bdu | yi ge gsum la bsdu na | *om āḥ* [D, 251b6] *hūṃ* [insert. gsum D] | [omit. | D] rlung 'byin pa *om* | gnas pa *āḥ* [ā la D] 'jug pa *hūṃ* | *om āḥ hūṃ* la bsdu |.
- (88) Ibid. (p. 435.4-5): gsum pa nyams su blangs pa la dgongs te | lus ngag yid gsum 'bras bu sku gsum du bsdu ba ni | [omit. | D] lus lha'i lha stangs kyi tshul | ngag rdo rje dbyangs kyi tshul | sems rtog med spros pa dang bral ba'o ||.
- (89) Ibid. (pp. 435.5-436.1): [D, 252a1] bzhi pa byin gyis brlabs pa la dgongs te [insert. | D] g.yung drung 'khyil ba la bsdu ba ni | rang [rang D, mang S] gi mdun gyi nam mkha' la ye shes kyi g.yung drung dmar po g.yon du 'khril ba la sems gtad la | snying po ma ning gi tshul du lce 'gul ba tsam du bzlas pas | lus la bde ba [D, 252a2] 'bar bar byin gyis brlabs | ngag la nus pa 'bar bar byin gyis brlabs | sems la rtogs [rtog D, rtogs S] pa 'bar bar byin rlabs 'char ro ||.
- (90) Ibid. (p. 436.1-2): lnga pa sems 'dzin la dgongs te | [omit. | D] thig le dmar po la bsdu ba ni | snying padma kha bye ba'i nang du thig le dmar po rgya sran tsam cig [zhig S] gnas te | byang chub sems kyi rten [D252a2] yin pas de [insert. la D] sems gtad la ma yengs par bzlas so ||.
- (91) Ibid. (p. 436.2): drug pa de kho na nyid la dgongs te | [omit. | D] gnas lugs gzhi'i [bzhi'i D] ngang la bsdu ba ni | sgo gsum rtsol ba glod la gnas lugs rang sar bzhas || rnam rtog grogs su 'khyer | [omit. | S] ma bcos pa'i ngang

- du bzhag go ||.
- (92) Ibid. (p. 436.2-3): spyi don bzhi pa ngo gang du sprad na | bar do [D, 252a4] rnam pa drug tu ngo sprod de [omit. de D] |.
- (93) Ibid. (p. 436.3-4): dang po rang bzhin gnas pa'i bar do la | [omit. | D] ma pang nas bu shor ba lta bu yin pas | ma khyab gdal chen mo'i [po'i D] gnas lugs las [insert. | D] bu rig pa'i dum bu chad pas | [omit. | D] ma bu brda sbyar 'khor 'das shan dbye ste | sems sangs rgyas su ngo sprad do ||.
- (94) Ibid. (p. 436.4-5): gnyis pa skye shi bar do la rgod phrug mas [D, 252a5] gso ba lta bu | bla ma'i gdams ngag la rim gyis [rims kyi S] goms 'dris brtan par byas la | rig pa rtsal 'byongs par sbyangs nas | rigs drug gi g'yang sa la nyam mi nga bar bya'o ||.
- (95) Ibid. (p. 436.5-6): gsum pa shes pa snga phyi'i bar do la | mun khung du sgron me bteg pa ltar rig pa gsal btab ste | rnam rtog ye shes [D, 252a6] su gsal btab la chos nyid rgyun chad med par ngo sprad do ||.
- (96) チベット語の rteng pa の訳語には Tsering Rinpoche が “back” と訳しているのを採用した。
- (97) Ibid. (pp. 436.6-437.1): bzhi pa rmi lam gyi bar do la [insert. | D] khungs [khungs D, khugs S] ngan pa la bu lon gyi rteng pa thob pa ltar [insert. | D] goms 'dris brtan pa'i rtags 'char bas | rmi lam dang srid pa'i bar do 'dra bas nyam mi nga ba'i gdengs thob pas [insert. | D] rang dbang rang la yod par ngo sprad do [omit. do S] || [| S] .
- (98) Ibid. (p. 437.1-2): lnga pa [D, 252b1] 'chi kha ma'i bar do la [insert. | D] a ne ma byams ma'i khim du tsha bo 'gro ba ltar | gong du bla ma'i gdams pa la goms 'dris brtan pa thob nas [insert. | D] 'chi ba la brod pas mi 'tsher te | shes pa mi gsal ba gsal bar ngo sprad do ||.
- (99) Ibid. (p. 437.2-3): drug pa srid pa'i bar do la yur ba kong chad la wa btsugs pa 'dra ste | phyi dbugs [D, 252b2] chad nang dbugs ma chad pa la chos nyid rgyun mthud [mthud D, 'thud S] nas brtan pa rab des grol | 'bring bar do shes pas grol | tha ma bar dor lhas lung bstan te grol bas | dbang po rab 'bring tha ma gsum gyi grol lugs yin no ||.
- (100) Ibid. (p. 437.3): spyi don lnga pa gnad gang du 'grol na | lta sgom gyi gdams pa drug tu 'grol |.
- (101) Ibid. (p. 437.3-4): dang po gang [D, 252b3] zag gi dus su bya dra bar mi gzhus || thos bsam gyis blo'i dra ba bsal [gsal S] nas [insert. | D] chos kyi go bas phyi rgya bcad |.

- (102) Ibid. (p. 437.4): lta ba'i dus su seng ge dkar mo lcags thag la mi gtod [brtod D gtod S] | nyam nga ba dang bag tsha ba med par chos nyid kyi gdengs [gdeng S] dang ldan par bya'o [bya'o D, bya S] || [I S] .
- (103) Ibid. (p. 437.4-5): sgom [bsgom D, sgom S] pa'i dus su shel gong dkar po 'dam du mi gzhus [insert. || S] rig [D, 253b4] pa gsal dag gi byi dor bya |.
- (104) Ibid. (p. 437.5): sbyong ba'i dus su glang chen smyon pa mi gtse [rtse D, gste S] | bcas bcos mi bya lhug par bzhas [|| D] .
- (105) Ibid. (p. 437.5-6): 'bras bu'i dus su yid bzhin gyi nor bu rin po che rang la yod pas gzhan nas mi btsal | ka dag chos sku'i ye shes ngos bzung |.
- (106) Ibid. (p. 437.6): gdams ngag gi dus su ye shes kyi spyang long du mi gzhus || [D, 252b5] chos nyid ma bu ngo sprad pa'o ||.
- (107) Ibid. (pp. 437.6-438.1): spyi don drug pa la gang du bzla na | [omit. | S] mi bden pa drug tu bzlas [bzla S] ste |.
- (108) Ibid. (p. 438.1): dang po sangs rgyas kyi thugs rje mi bden [insert.| D] chos sku rtag med la ye shes dang mi shes pa gnyis ka med |.
- (109) Ibid. (p. 438.1-2): gnyis pa sems can gyi las mi bden | rig pa skye med stong pa tsam du yang ma grub | gang du yang ma grub [D, 252b6] par gsal | dus gsum du rgyu rkyen chad |.
- (110) Ibid. (p. 438.2): gsum pa 'phral gyi rkyen mi bden | chos nyid stong pa la bde sdug gi rgyu med |.
- (111) Ibid. (p. 438.2): bzhi pa byas pa'i chos mi bden | 'dus byas thams cad 'jig pas mi rtag don med do ||.
- (112) Ibid. (p. 438.2-3): lnga pa bsgrub bya'i lam mi bden | rtsol sgrub thams cad 'dod pa'i lam gyis 'ching bar byed |.
- (113) Ibid. (p. 438.3): [D, 253a1] drug pa thob pa'i 'bras bu mi bden | grub mtha' thams cad blo'i 'dod pa | blo 'gyur bas 'bras bu 'gyur ba yin no ||.
- (114) Ibid. (p. 438.3): tha ma las tshogs kyi yan lag ji ltar bshad na |.
- (115) Ibid. (p. 438.4): rten gyi chos drug la [insert. | D] rab gnas | mchod pa | bstod pa | gsol ba gdad pa | tshwa [tsha D, tshwa S] tsha | [D, 253a2] sku khru dang drug go ||.
- (116) Ibid. (p. 438.4-5): gson gyi chos drug la | dbang bskur | tshe bsgrub [sgrub S] | byin rlabs [brlabs S] | dbyug chos | srung 'khor | nad 'don dang drug go ||.
- (117) Ibid. (p. 438.5): gshin po la phan gdags pa'i chos drug la | ro khru | bum chog | ro bsreg | mtshan byang sbyangs pa | dur chad du gzhus pa | ro [D, 253a3] zan btang ba dang drug go ||.

- (118) Ibid. (p. 438.5-6): 'phrin las drug la | zhi ba | rgyas pa | dbang | mngon spyod | sbyin sreg | brtul zhugs dang drug go ||.
- (119) Ibid. (p. 438.6): gsang sngags kyi gnad drug la | rtsa rlung | 'pho ba | grong 'jug | [|| D] sgyu lus | 'od gsal | gtum mo dang drug go ||.
- (120) Ibid. (pp. 438.6-439.1): thun mtshams kyi chos drug la | [D, 253a4] bdun rnam dag | [|| D] maṇḍala | khruś chab | bskor ba | gtor ma | chu gtor dang drug go ||.
- (121) Ibid. (p. 439.1): las kyi kha tshar de rnamś thams cad la | phyi | nang | gsang ba | don | rtags | [phyi nang gsang ba don rtags D] mtshon pa ste re re la drug drug gis bshad do ||.
- (122) Ibid. (p. 439.1-2): thugs rje chen po yid bzhin nor bu'i rgyan [insert. | S] yi ge drug pa 'phrul gyi dum bu zhes bya ba | [D, 253a5] thugs rje chen po'i sprul pa chos skyong ba'i rgyal po srong btsan sgam pos mdzad pa'o || ||.

参照文献

Maṇi bka' 'bum.

B= ジェブン ('Bras spungs) 版。

D= デルゲ (sDe dge) 版。La Bibliothèque de l'École française d'Extrême-Orient (Paris) 極東フランス学院パリ支部図書館蔵。

S= プナカ版 *Ma ṇi bka' 'bum: A collection of rediscovered teachings focussing upon the tutelary deity Avalokitesvara (Mahākaraṇika)*. Reproduced from a print from the no longer extant Spuñs-thañ (Punakha) blocks by Trayang and Jamyang Samten. Vol. I (Wam). New Delhi, 1975.

Ehrhard, Franz-Karl. 2000. *Vividharatnakaraṇḍaka: Festgabe für Adelheid Mette*. Ed. Christine Chojnacki, Jens-Uwe Hartmann and Volker M. Tschannerl. Swisttal-Odendorf: India et Tibetica Verlag, pp. 199-214.

Gyatso, Janet. 1981. *A Literary Transmission of the Traditions of Thang-stong rgyal-po: A Study of Visionary Buddhism in Tibet*. Ph.D. Dissertation from University of California, Berkeley. UMI: 8211946.

H. E. Trizin Tsering Rinpoche. *Mani Kabum: Profecies & Teachings of Great Compassion*. Vol. 1. 2007, n.p.

Kapstein, Matthew. 1992. "Remarks on the *Maṇi bKa'-'bum* and the Cult of Avalokiteśvara in Tibet." In *Tibetan Buddhism: Reason and Revelation*. Ed. by Steven D. Goodman and Ronald M. Davidson. pp. 79-93, pp.163-169. Albany: State University of New York Press.

『マニ・カンブン』における観自在菩薩の「六字真言成就法」(横殿伴子)

Makodono, Tomoko. 2016. *Dge-rtse Mahāpaṇḍita's great middle way of other-emptiness : a study of Kaḥ-thog Dge-rtse Mahāpaṇḍita 'Gyur-med-tshe-dbang-mchog-grub's* (1761-1829) : interpretation of the doctrine of the great madhyamaka of other-emptiness (gzhan stong dbu ma chen po). Minobumachi: The Faculty of Buddhism, the Department of Tibetan Students, Minobusan University; Tokyo: Sankibo Busshorin.

勝又俊教『弘法大師の思想とその源流』山喜房仏書林、1981年

土居夏樹「三種即身成仏について」『智山学報』通号83、2020年、239-255頁。

苔米地等流「NāropaのPañcakrama 註とそのチベット仏教における位置 - Tson kha paの立場を中心に -」『日本西藏学会会報』第38号、1992、2-9頁。

ツルティム・ケサン／山田哲也『ツォンカパ チベットの密教ヨーガ』文栄堂書店、1999年。

平松敏雄『『秘密集会』の「五次第」と「ナーローの六法」について』山口瑞鳳編『チベットの仏教と社会』春秋社、1986年、163-198頁。

横殿伴子『チベット建国説話と観自在信仰 - 『マニ・カンブン』「偉大なる歴史章」を中心に』起心書房、2021年。

渡邊温子「師資相承から見るチベットの聖者ミラレーパの仏教者としての生き方」学位請求論文(大谷大学)2014年。(大谷大学学術情報リポジトリ)

https://otani.repo.nii.ac.jp/index.php?action=repository_view_main_item_snippet&index_id=25&pn=1&count=50&order=17&lang=japanese&page_id=13&block_id=28

〈キーワード〉マニ・カンブン、観自在菩薩、六字真言、成就法、ソンツェンガンポ王、前伝期チベット仏教、自心仏、如来蔵思想、大悲心、自身仏、即身成仏、仏性『宝生論』(Ratnagotravibhāga) 瞑想学派 (sgom lugs)、ツェンカオチェ、他空派 (gzhan stong)、アティシヤ、実践指南 (dmar khrid)